



「豊かに住まうこと」 調査報告書



旭化成ホームズ株式会社
くらしノバージョン研究所

はじめに

あなたにとって「豊かに住まう」ということはどのようなことでしょうか。「豊かさ」を広辞苑で引くと「物が豊富で、心の満ち足りているさま。財産がたくさんあるさま。」と書かれています。しかし、博報堂生活総研「生活定点調査2012」によると、自分の生活が豊かな方だと感じている人は54.5%、経済的に余裕がある方だと考える人とは22.8%で、経済的余裕がある人だけが生活を豊かだと感じているわけではないことがわかります。

いま多くの方は、暮らしに「豊かさ」を求める一方で、既にこれからは、単純にモノを求めて心満ち足りることにより「豊かさ」を追求していくことはできないと意識しています。例えば、現代は資源を豊富に使う時代は終わり、限りある資源を大切に使う時代です。一方で、日常の暮らしのなかで、資源を大切にしようとする行動すると、ともすると、我慢を強いられ豊かさとは反対の方向へ仕向けられるように感じられる方もいるかもしれません。だからこそ、これからの時代を「豊かに」生きていくためには、モノや資源を大切に作る暮らしと「豊かさ」の両立が必須であり、その魅力あるビジョンが必要だと考えます。

私たちは、今一度、これからの「豊かに住まう」ことがどのようなことなのか、実態を探り、その意味を問い直します。まず本報告書では、豊かに住まうために大切なこと、豊かさを感じるということとはどのようなことなのか、その実態を調査し分析した結果をご報告します。これらから得た知見を基礎として、更に検討を加え、今後の住宅のあり方や暮らしのご提案に活かしていく所存です。

旭化成ホームズ株式会社
暮らしノベーション研究所

はじめに	1
調査概要	4
回答者属性	4
1. 暮らしに豊かさを感じるということ	5
暮らしに豊かさを感じていますか?	6
性年代別の特徴	6
経済的な特徴	7
年代別夫婦の就業状況による特徴	9
年代別夫婦の就業状況と経済状況の関係	10
生活時間の特徴	11
【参考データ】年代別夫婦の就業状況と生活時間	12
自宅建物の特徴	15
省エネルギーに対する取り組みとの関係	16
自宅での暮らしの中で満足していること	17
あなたにとって「豊かに住まう」とはどのようなことですか	18
自宅で豊かさを感じる光景	20
自宅で豊かさを感じる光景の性・年代別の特徴	21

2. 豊かに住まうために大切と感じる意識の構造 25

豊かに住まうために大切な6つの要素とは 26

（参考）豊かに住まうために大切なことに関する設問 27

豊かに住まうために大切な6つの要素 性年代別「大切と感じる」傾向 28

豊かに住まうために大切な要素 A.自然による住まいの彩り・設え 29

豊かに住まうために大切な要素 B.自然を意識した健康な暮らし 29

豊かに住まうために大切な要素 C.社会とのつながり 30

豊かに住まうために大切な要素 D.家族とのつながり 30

豊かに住まうために大切な要素 E.自己実現のための時間や経済的なゆとり 31

豊かに住まうために大切な要素 F.安心・安全な暮らし 31

3. まとめ 33

調査概要

電子メールで「豊かに住まうこと」アンケート調査への回答依頼を送信し、ウェブ上に設けたアンケート調査票へ誘導しました。本報告書では、特段の断りのない限り、一般戸建居住者を対象とした結果を掲載します。

項目	内容
調査期間	2013年7月（30代～70代） 2014年11月（70代のみ）
調査対象	戸建住宅の居住者・既婚 70代のみ、マンションの居住者を含む
調査方法	ウェブ調査票による調査
有効回答数	一般戸建居住者 1721件 マンション居住者（70代のみ） 300件 ヘーベルハウス居住者 602件

回答者属性（一般戸建居住者）

項目	結果
性別	男性 45.4% 女性 54.6%
年代	30代 17.8% 40代 23.5% 50代 22.5% 60代 18.8% 70代 17.4%
就業状況（回答者）	フルタイム 46.7% パートタイム 13.0% 自由・自営業 6.2% 専業主婦・主夫 25.5% 無職 7.5% その他1.1%
家族人数	平均3.3人
建物延面積	100㎡未満24.1% 100～140㎡未満 30.1% 140～180㎡未満 16.9% 180～220㎡未満 5.9% 220㎡以上4.1% わからない18.9%
世帯年収	500万円未満 32.1% 500～700万円未満 21.3% 700～1000万円未満 23.1% 1000～1500万円未満 11.4% 1500万円以上4.2% 答えたくない 7.9%



1. 暮らしに豊かさを感じるということ

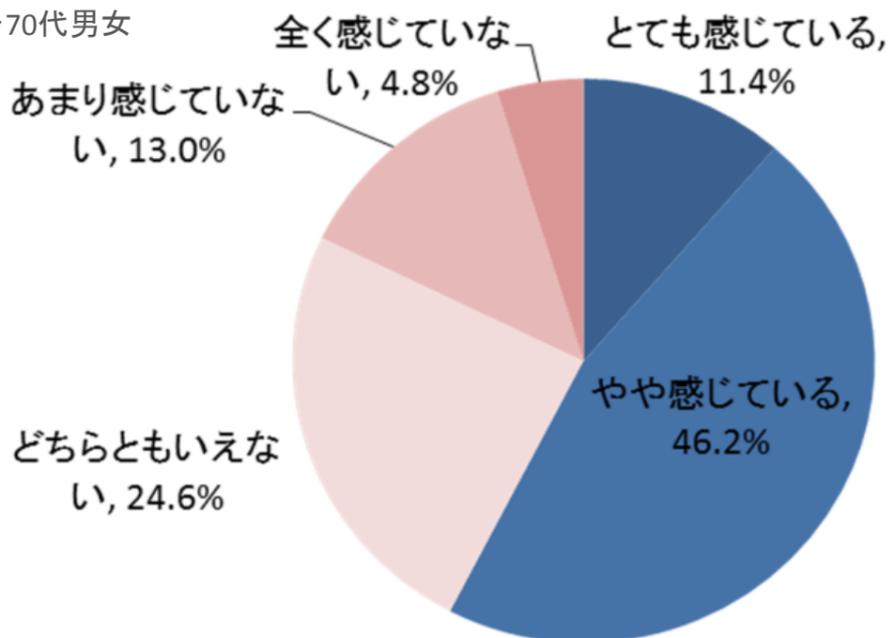


1. 暮らしに豊かさを感じるということ

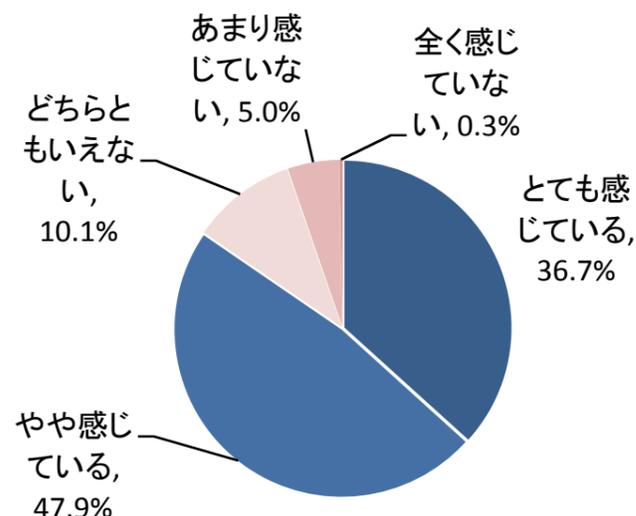
暮らしに豊かさを感じていますか？
暮らしに豊かさを感じている人は、全体の57.6%

「ご自宅での暮らしにどれくらい豊かさを感じていますか。」という問いに対して「とても感じている」11.4%、「やや感じている」46.2%で、合せて過半数が感じているという回答でした。

対象：戸建居住
30代～70代男女



対象：ヘーベルハウス居住
30代～70代男女

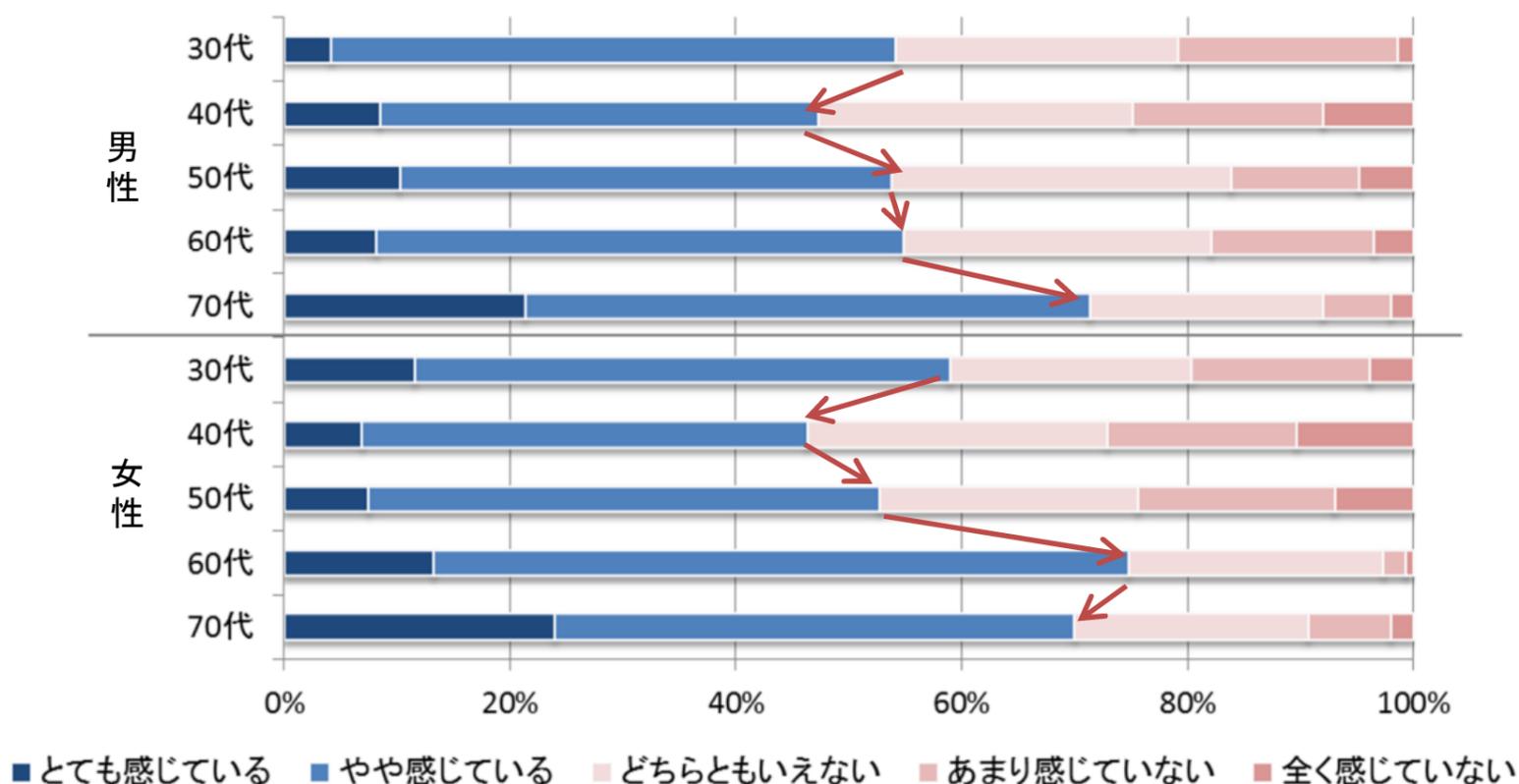


性年代別の特徴

暮らしに豊かさを感じる割合は40代で最も低く、50代以上で増加するV字型

暮らしに豊かさを感じる割合については、性別による違いは大きくは見られませんが、年代では、30代以下から40代で豊かさを感じる割合が減少し、男性は60代から70代で、女性は50代から60代で最も大きく増加するV字型の傾向がみられます。

性年代別 暮らしに豊かさを感じる割合



1.暮らしに豊かさを感じるということ

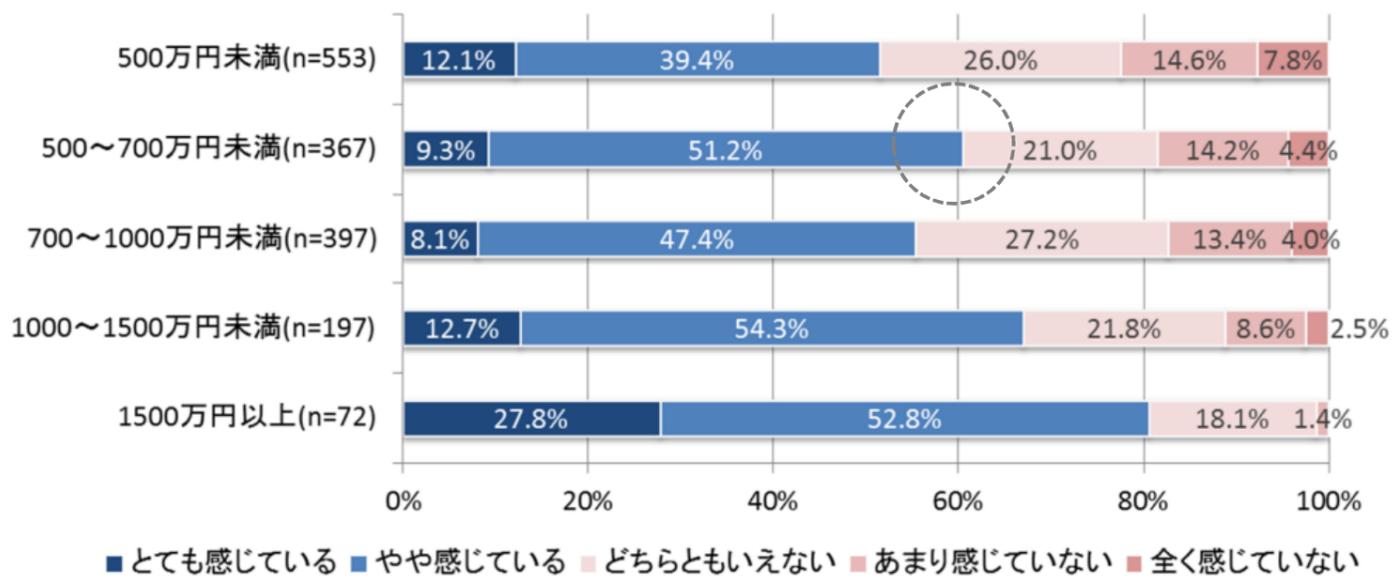
経済的な特徴 1

世帯年収が高いほど暮らしに豊かさを感じる傾向があるが、それだけではない…

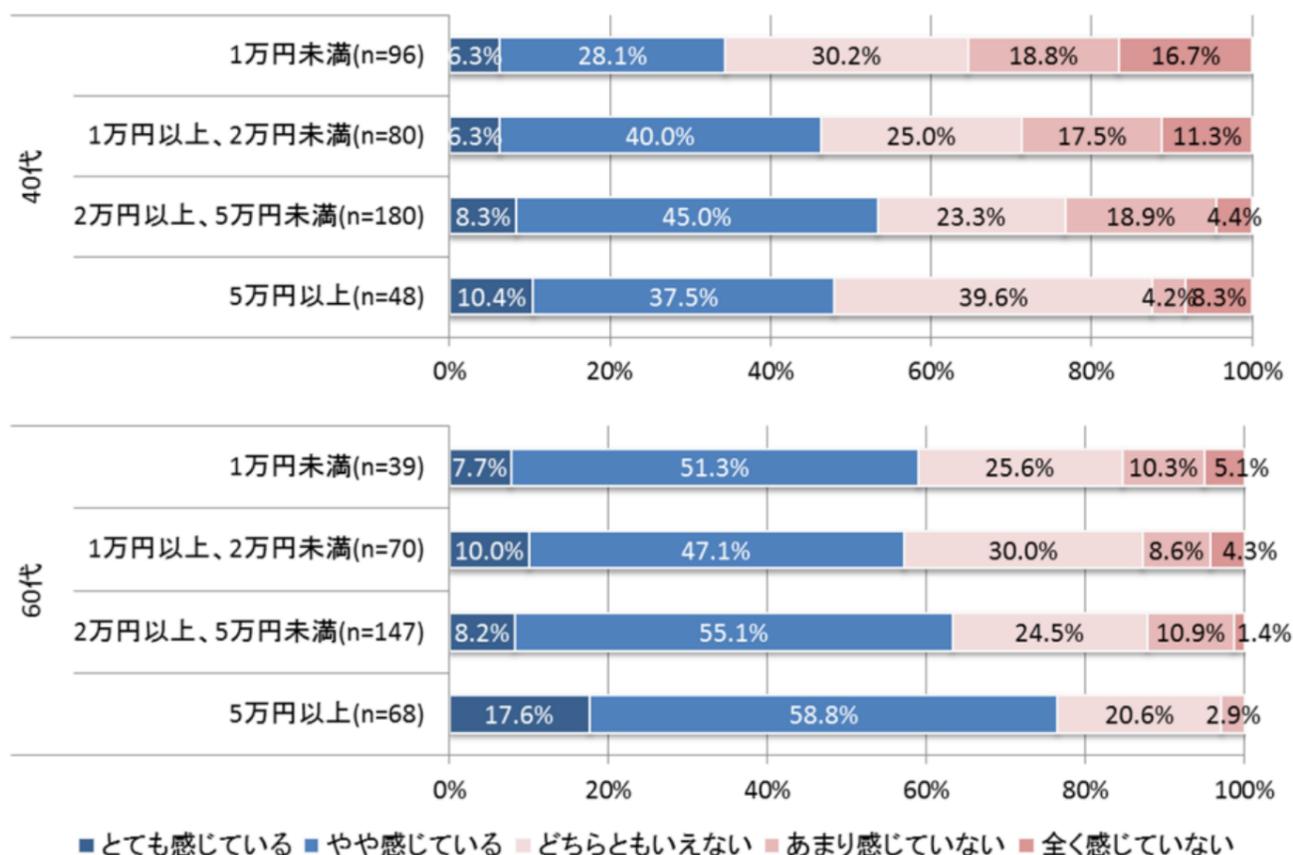
合計世帯年収が多いと、豊かさを感じる度合いが大きい傾向が見られます。豊かさと経済力には、やはり一定の関係がありそうです。

しかし、合計世帯年収500～700万円未満のカテゴリで豊かさを感じている度合い（「とても感じている」＋「やや感じている」）が高くなっています。また、月に自由に使えるお金との関係を年代別にみても、単純な相関関係は見られず、経済的なもの以外に豊かさと関係してものがあることがうかがえます。

暮らしに豊かさを感じる度合いと合計世帯年収



暮らしに豊かさを感じる度合いと月に自由に使えるお金



1.暮らしに豊かさを感じるということ

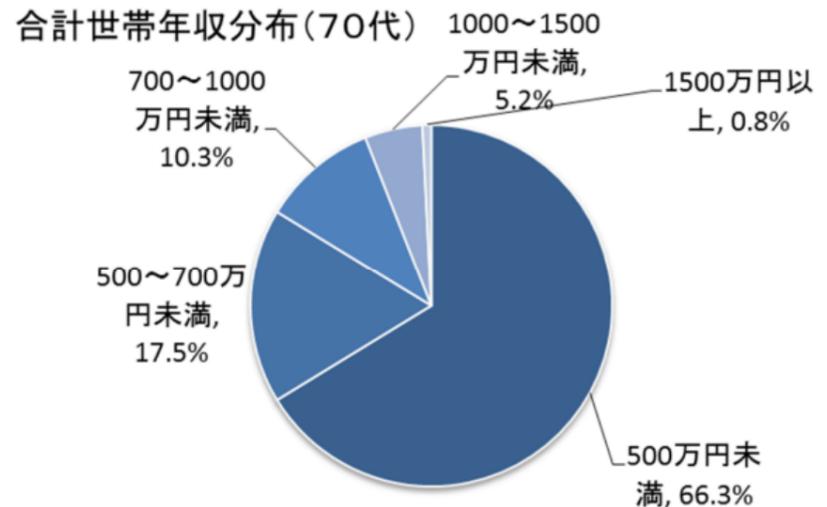
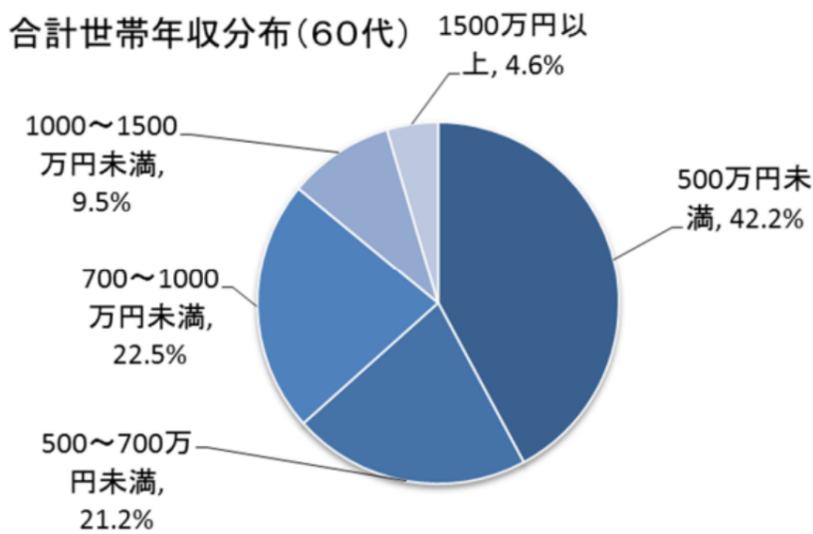
経済的な特徴2

高齢期は特に、暮らしを感じる豊かさと世帯年収との関係は小さい

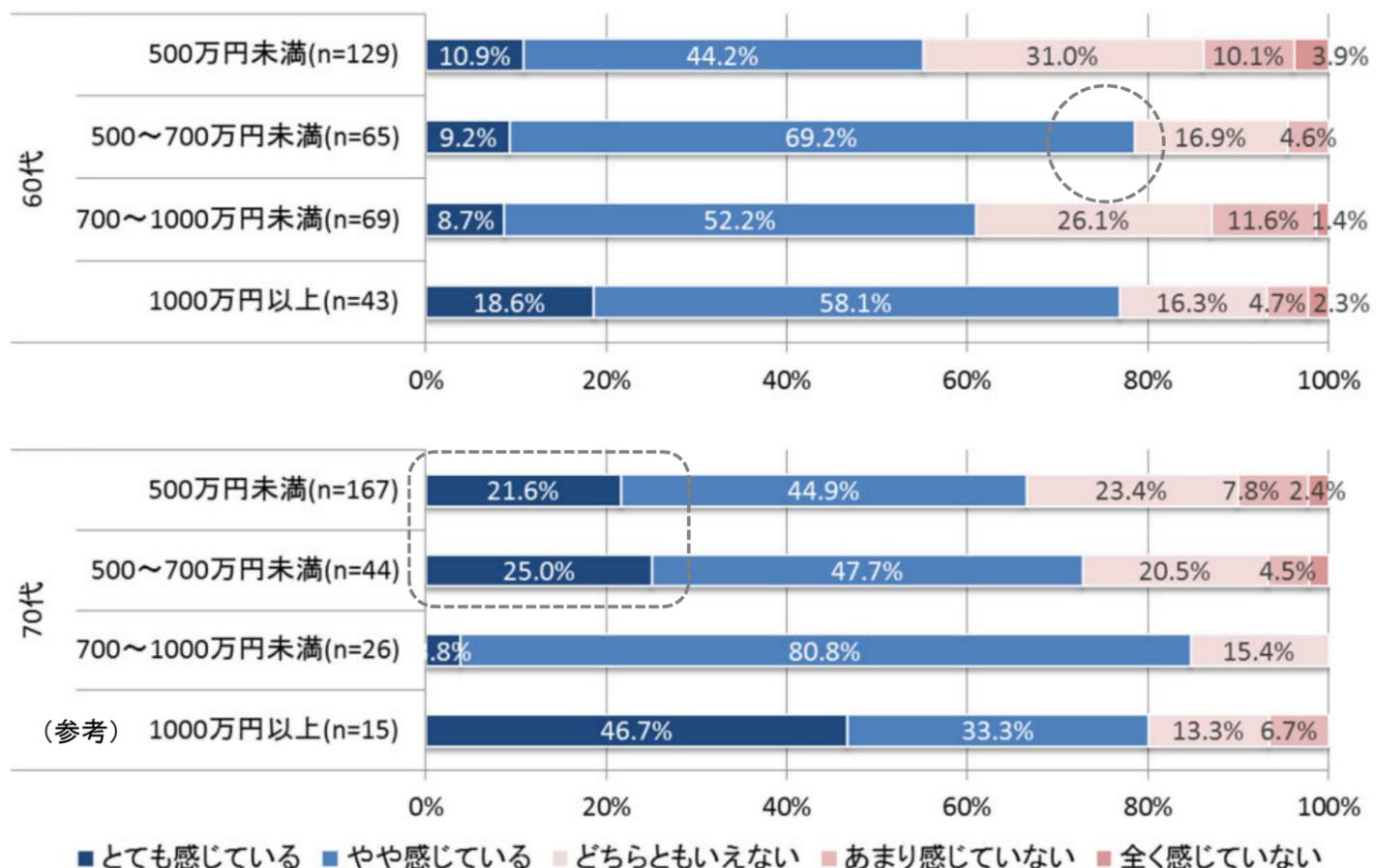
前頁で見たように、世帯年収500～700万円では、前後の年収よりも豊かさを感じる人が多いことがわかりました。実は、この世帯年収500～700万円は、60代、70代が多く含まれます。下図のように、60代では63.4%、70代では83.8%が該当しています。

豊かさと年収との関係をより探るために、60代、70代を取り出して、豊かさを感じる度合いと世帯年収の関係を見てみましょう。

その結果、60代では世帯年収と豊かさの間に相関関係があるとはいえず、70代では、500万円未満、500～700万円でも豊かさを「とても感じている」人が、2割を超えて多いことがわかります。高齢期では特に、豊かさを感じる度合いと世帯年収の関係は小さいようです。



暮らしに豊かさを感じる度合いと合計世帯年収



1.暮らしに豊かさを感じるということ

年代別夫婦の就業状況による特徴

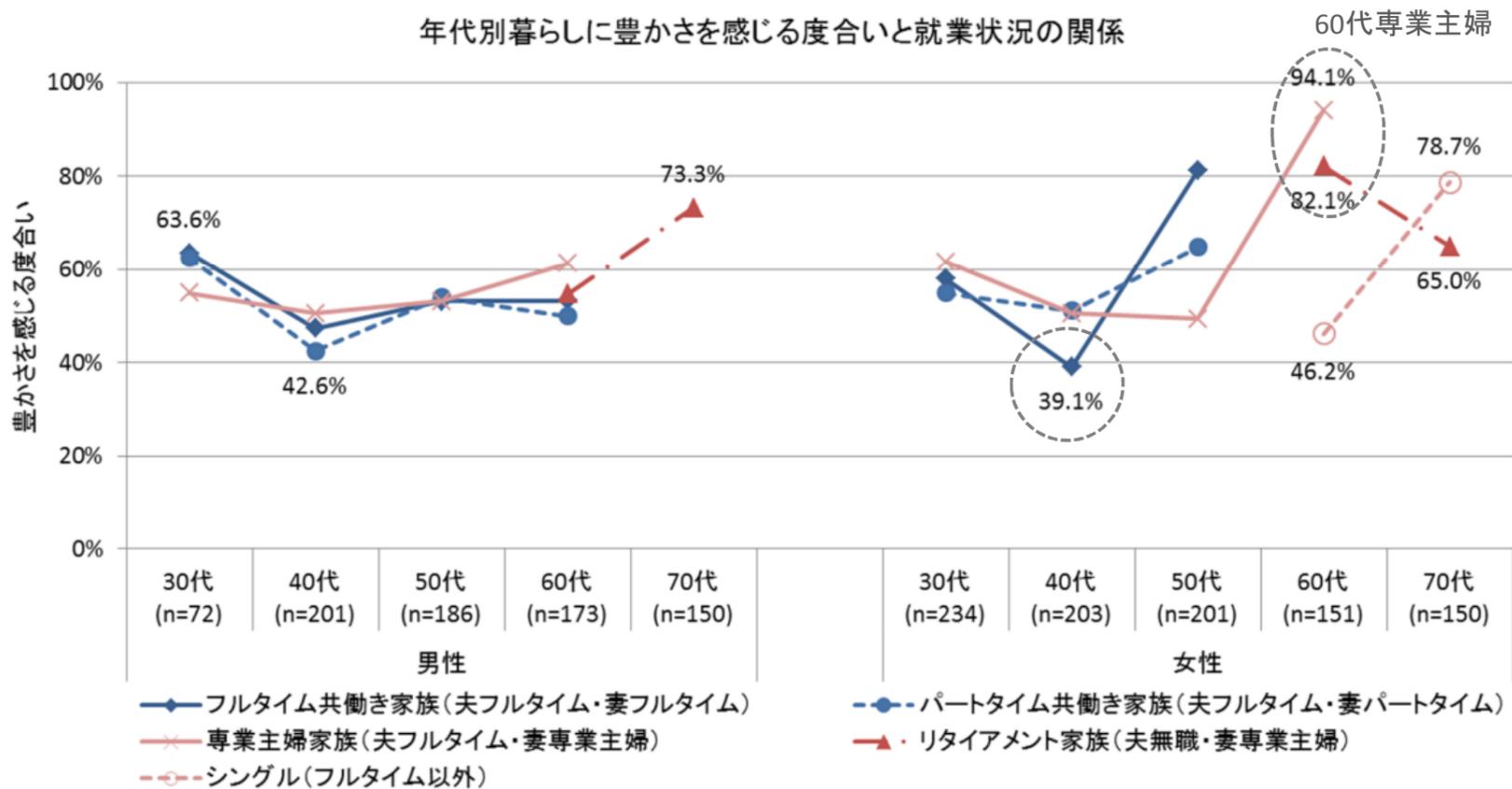
最も豊かさを感じているのは60代の専業主婦、40代のフルタイム共働き女性が最も低く4割以下

夫婦の就業状況ごとに年代別にし豊かさを感じる度合いをみてみます。

30代男性は共働き家族（夫フルタイム・妻フルタイム／パートタイム）で豊かさを感じる割合がやや高いのですが、40代で40%台に低下し、パートタイム共働き家族が最も低くなります。男性で最も豊かさを感じているのは、70代リタイヤメント家族（夫無職・妻専業主婦）です。

女性は、40代のフルタイム共働家族（夫フルタイム・妻フルタイム）で39.1%と低いことが顕著ですが、50代では81.3%と高くなります。最も豊かさを感じる割合が高いのは、60代専業主婦家族（夫フルタイム・妻専業主婦）94.1%でした。リタイヤメント家族（夫無職・妻専業主婦）は60代では82.1%ですが、70代にはやや低くなります。

シングル（フルタイム以外）は、60代で46.2%と低いことが目立ちますが、70代では78.7%と豊かさを感じる度合いが高くなります。



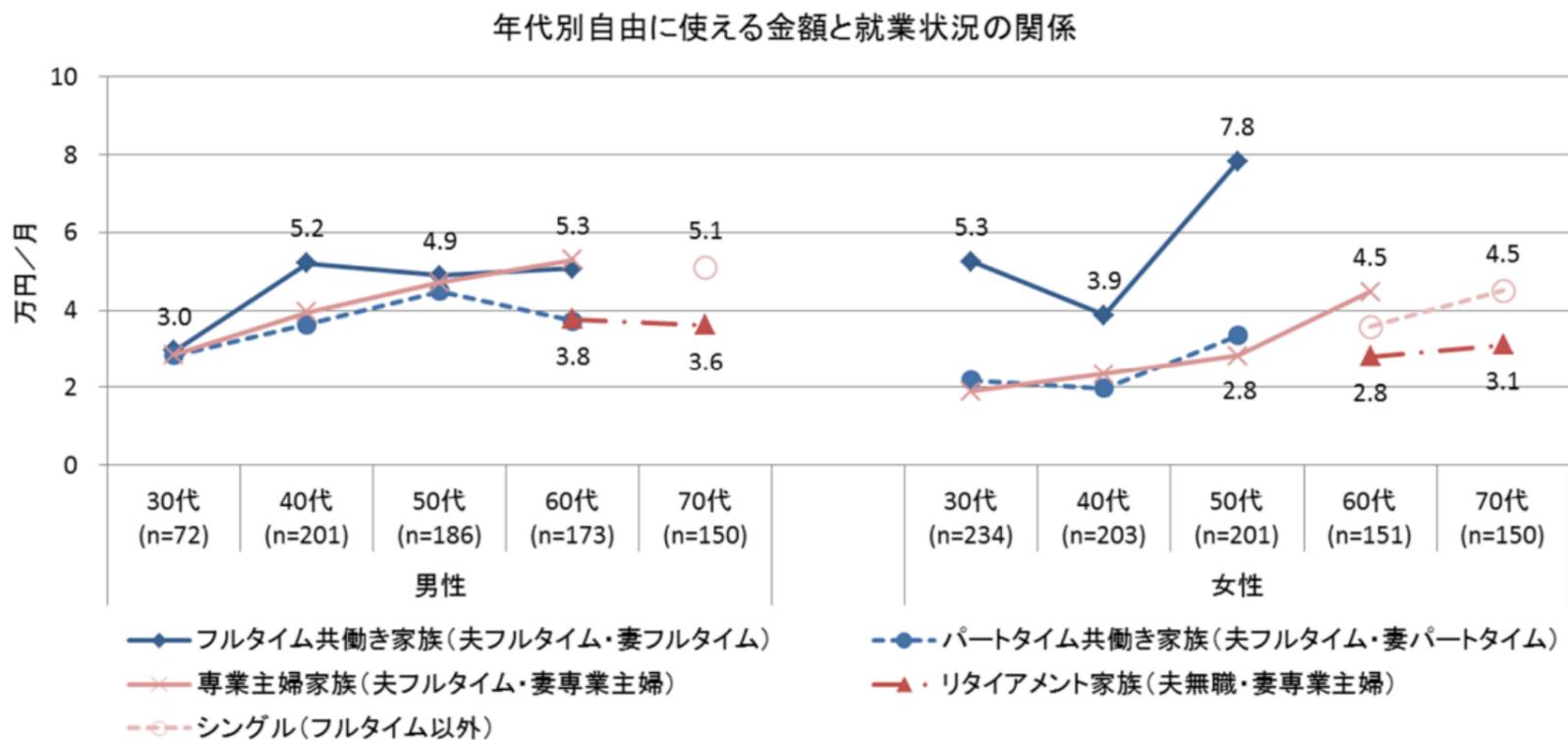
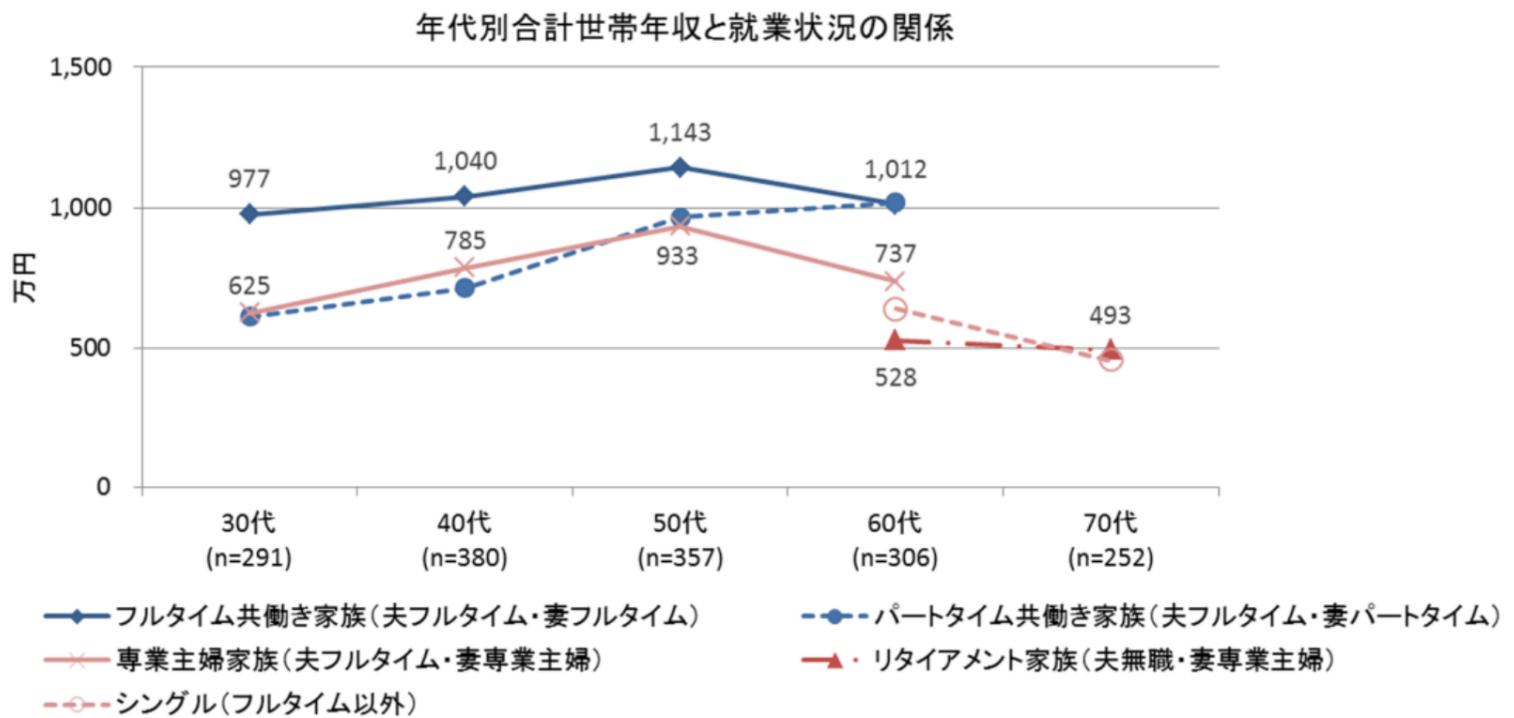
1.暮らしに豊かさを感じるということ

年代別夫婦の就業状況と経済的状況の関係 豊かさを感じることに對する経済的要因の影響は限定的

前頁の年代・就業状況からみた豊かさを感じる度合いの特徴は、経済的要因の影響があるのでしょうか。

下図を見てみると、豊かさを感じる度合いは、経済力にのみ依るものではないようです。専業主婦家族は、60代で世帯年収が減少しますが、専業主婦は50代から60代にかけて豊かさを感じる人が非常に多くなり、94.1%に達します。自由に使える金額をみても、専業主婦は50代から60代にかけて2.8万円/月から4.5万円/月に増加しますが、50代フルタイム共働き女性の7.8万円/月に及ばず、豊かさを感じる度合いが受ける影響は限定的と思われる。

同様に、フルタイム共働き家族の男性は、自由に使える金額が40代で5.2万円/月になりますが、豊かさを感じる度合いは50.5%で30代よりも低く、経済的要因以外の影響があると考えられます。



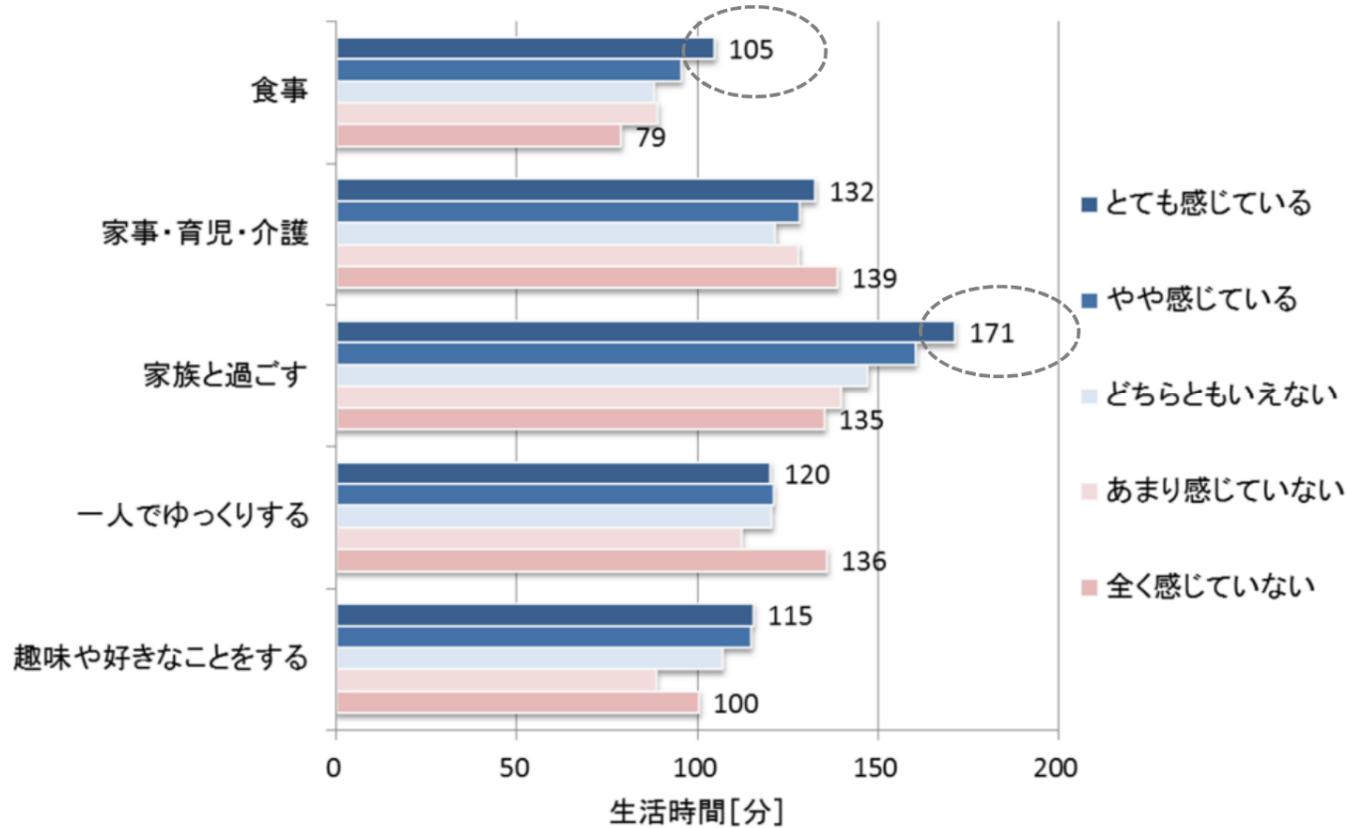
1.暮らしに豊かさを感じるということ

生活時間の特徴

豊かさを感じている人は、自宅で「家族と過ごす」時間、「食事」時間が長い

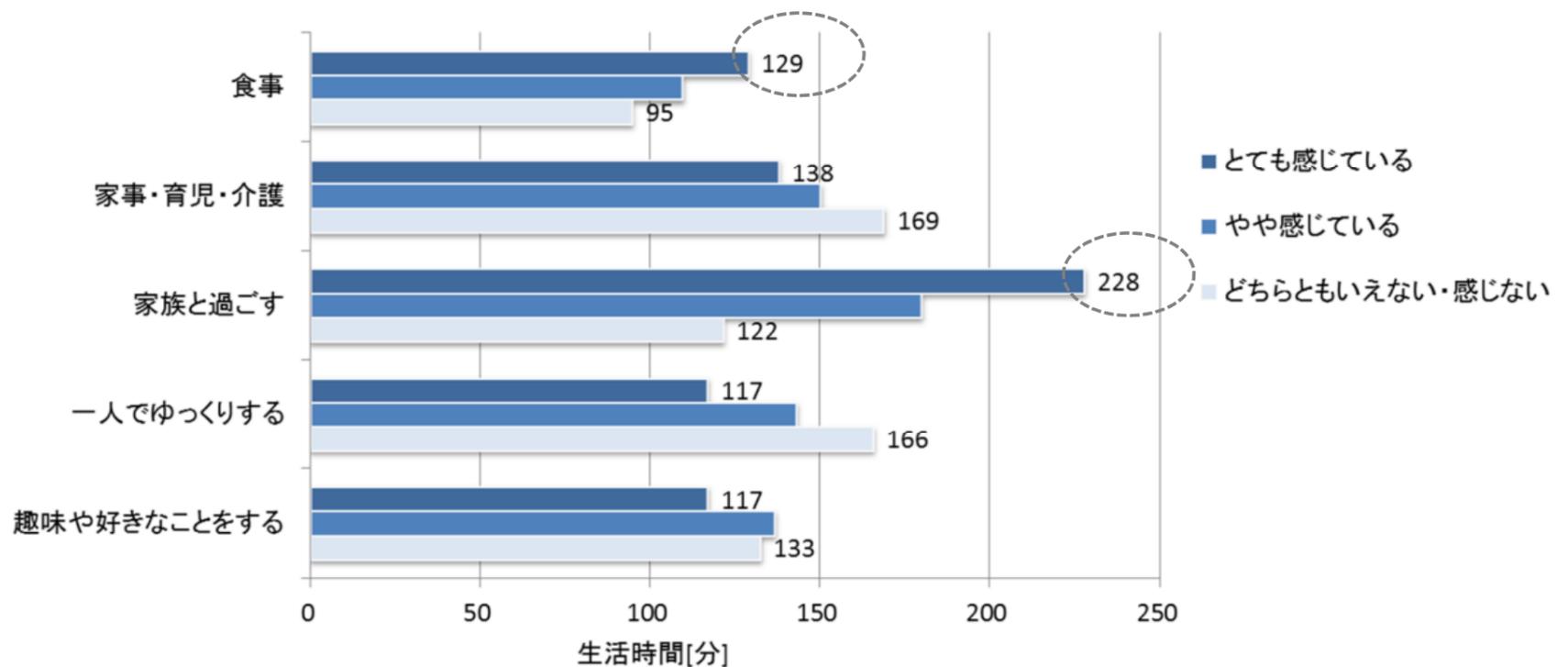
平日の生活時間をみると、豊かさを感じている人は、「家族と過ごす」時間と「食事」時間が長いことがわかります。「家事・育児・介護」に関しては豊かさを「とても感じている」人が長い反面、「全く感じていない」人も長いという傾向があり、年代で傾向が異なる可能性が考えられます。また「一人でゆっくりする」時間が長いことは、豊かさとの関係は見られず、適度なバランスが必要とされていると思われます。

暮らしの豊かさを感じる度合い別自宅での生活時間(平日)



豊かさを感じる度合いの高い60代女性の生活時間を見ると、同様に、豊かさを感じている人は「家族を過ごす」時間と「食事」時間が長い傾向がさらに顕著です。「家事・育児・介護」時間については豊かさを感じている人ほど短いということがわかります。

暮らしに豊かさを感じる度合い別自宅での生活時間(平日)
60代女性



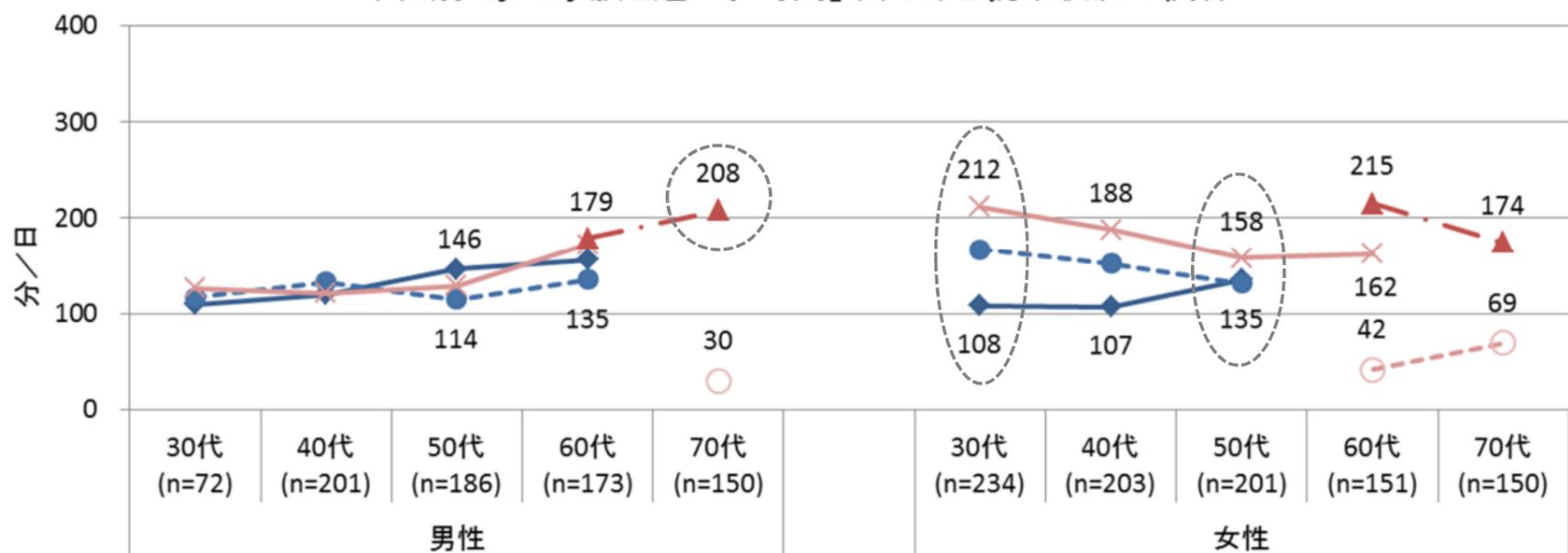
1.暮らしに豊かさを感じるということ

【参考データ1】年代別夫婦の就業状況と生活時間：平日「家族と過ごす」「家事・育児・介護」
家族と過ごす時間は、フルタイム共働き女性では50代で増加、専業主婦とパート女性は徐々に減少

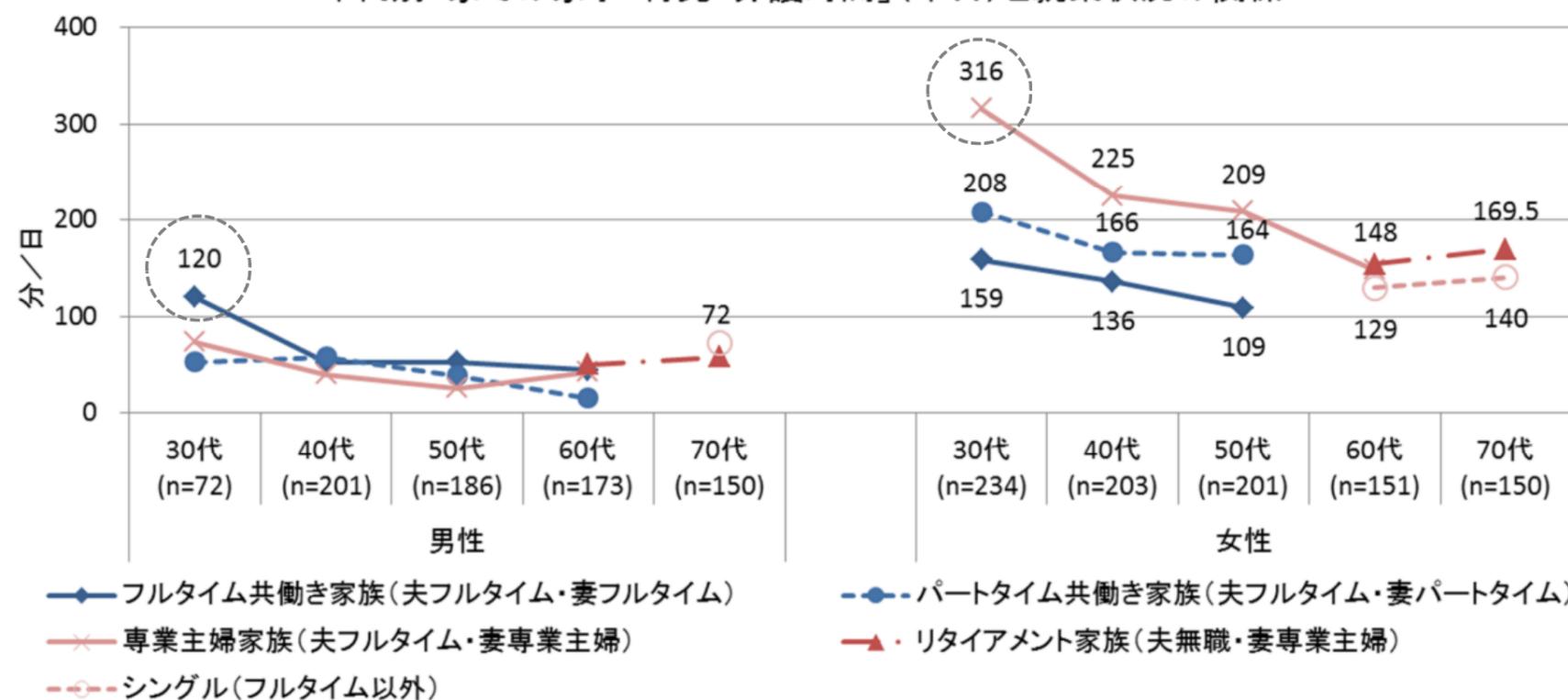
平日に「家で家族と過ごす時間」は、男性はフルタイム共働きや専業主婦家族では年代が高くなると徐々に増加します。女性は30代では妻の就業状況による違いが大きく専業主婦家族はフルタイム共働き家族よりも「家で家族と過ごす時間」が104分/日長いことがわかります。しかしフルタイム共働きは50代になると「家族と過ごす時間」が増加し、パートタイム共働きや専業主婦家族では年代が高くなると減少傾向です。男女とも最も「家で家族と過ごす時間」が長いのはリタイアメント家族です。

平日の「家事・育児・介護時間」は、男性では30代フルタイム共働き家族で最も多く120分/日、パートタイム共働きや専業主婦家族の約2倍です。女性では30代専業主婦家族が最も多く316分/日で、フルタイム共働き家族の約2倍です。

年代別「家で家族と過ごす時間」(平日)と就業状況の関係



年代別「家での家事・育児・介護時間」(平日)と就業状況の関係



- ◆ フルタイム共働き家族(夫フルタイム・妻フルタイム)
- ◆ パートタイム共働き家族(夫フルタイム・妻パートタイム)
- × 専業主婦家族(夫フルタイム・妻専業主婦)
- ▲ リタイアメント家族(夫無職・妻専業主婦)
- シングル(フルタイム以外)

1.暮らしに豊かさを感じるということ

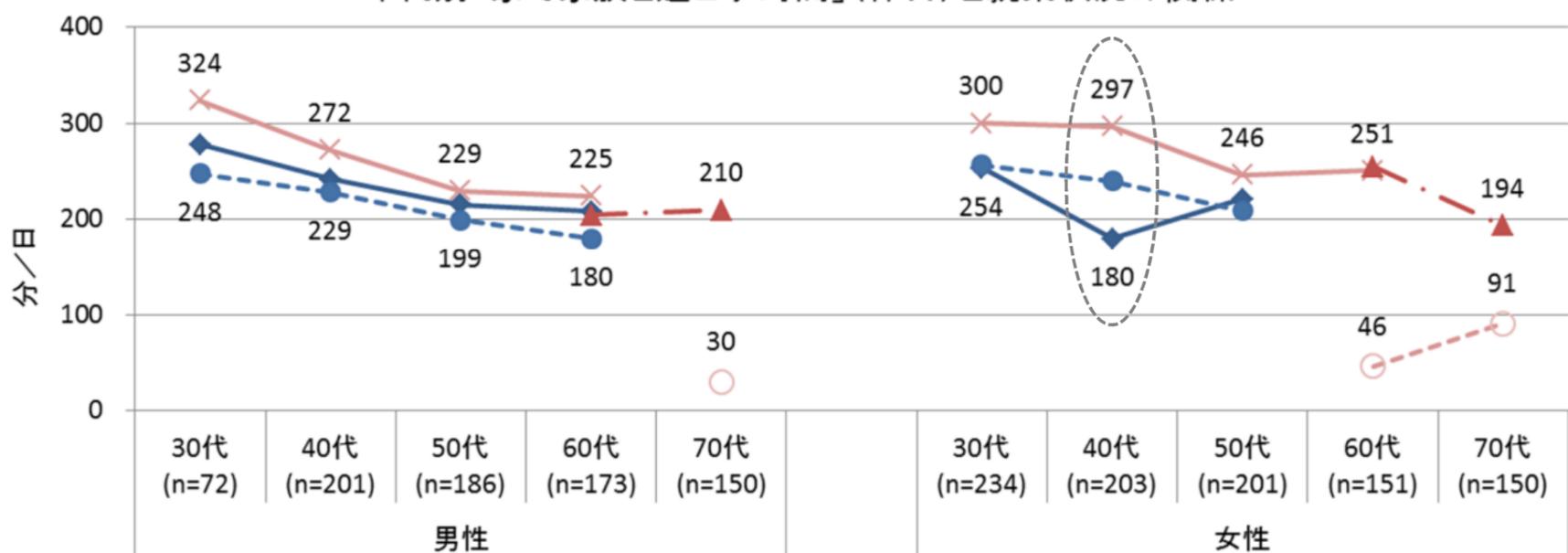
【参考データ2】年代別夫婦の就業状況と生活時間：休日「家族と過ごす」「家事・育児・介護」

休日の家事・育児・介護時間は30代のフルタイム共働きでは夫婦ほぼ同じ、40代は男女差が目立つ

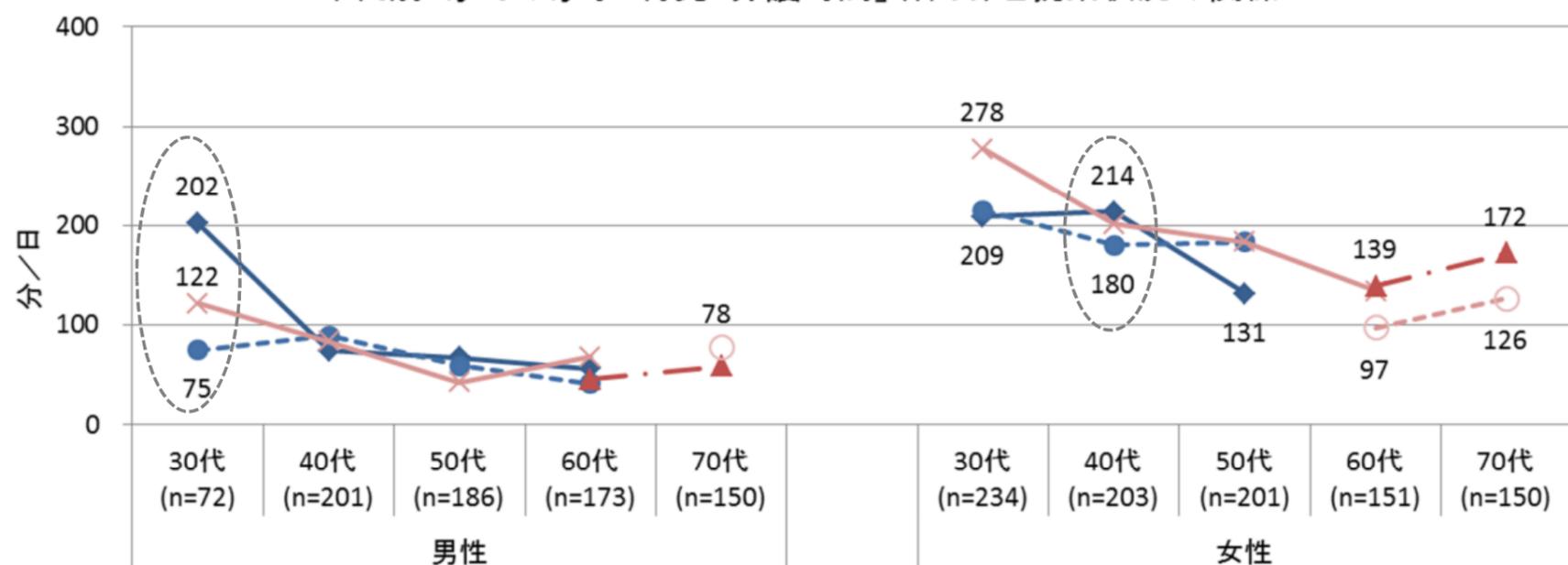
豊かさを感じる度合いが、最も低い40代フルタイム共働き女性の休日の生活時間をみると、「家で家族と過ごす時間」が他の家族と比較して少なくなります。加えて、パートナーと想定されるの40、50代フルタイム共働き男性の「家事・育児・介護時間」は専業主婦家族と同程度であり、これらのことから暮らしに負担を感じている可能性があります。

一方で30代に注目すると、フルタイム共働き家族の男性の「家事・育児・介護時間」は202分/日で、女性209分/日とほぼ同じという特徴があります。30代の専業主婦家族の男性も「家事・育児・介護時間」が122分/日で、40代以上のフルタイム共働き男性を上回ります。30代男性のこの特徴は、年齢効果ではなく、世代効果（コウホート効果）と言えるかもしれません。この世代の今後10年の変化が注目されます。

年代別「家で家族と過ごす時間」(休日)と就業状況の関係



年代別「家での家事・育児・介護時間」(休日)と就業状況の関係



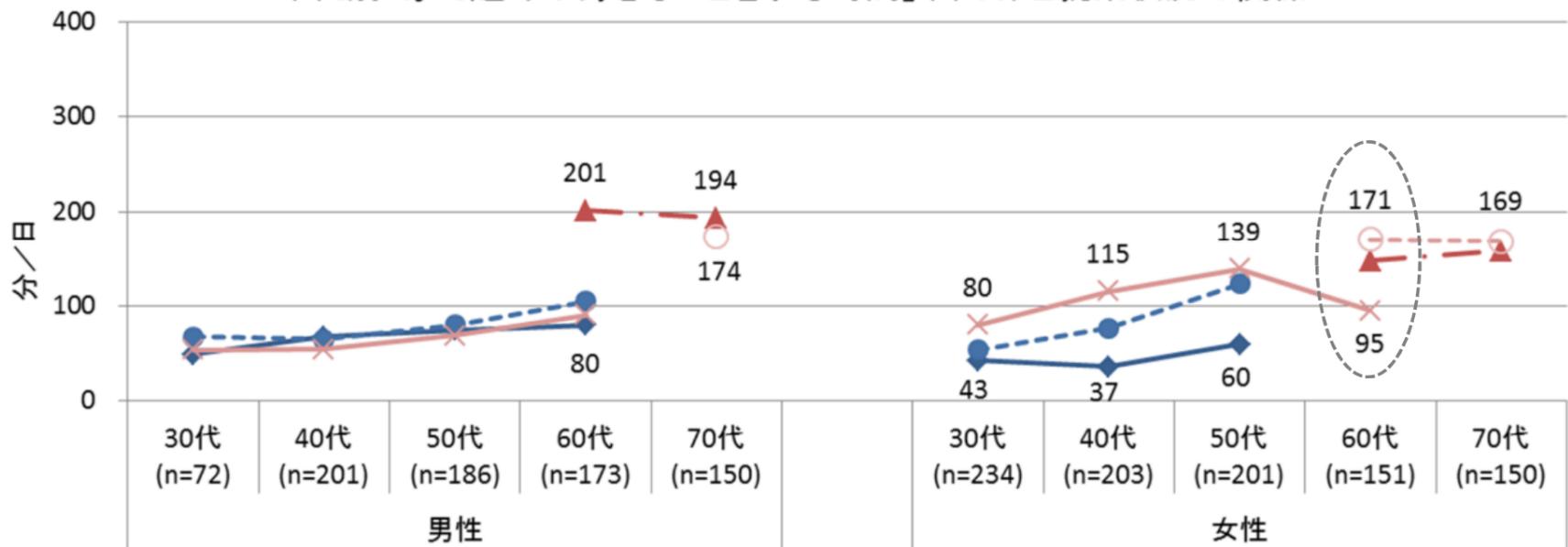
- ◆ フルタイム共働き家族(夫フルタイム・妻フルタイム)
- ◆ パートタイム共働き家族(夫フルタイム・妻パートタイム)
- × 専業主婦家族(夫フルタイム・妻専業主婦)
- ▲ リタイアメント家族(夫無職・妻専業主婦)
- シングル(フルタイム以外)

1.暮らしに豊かさを感じるということ

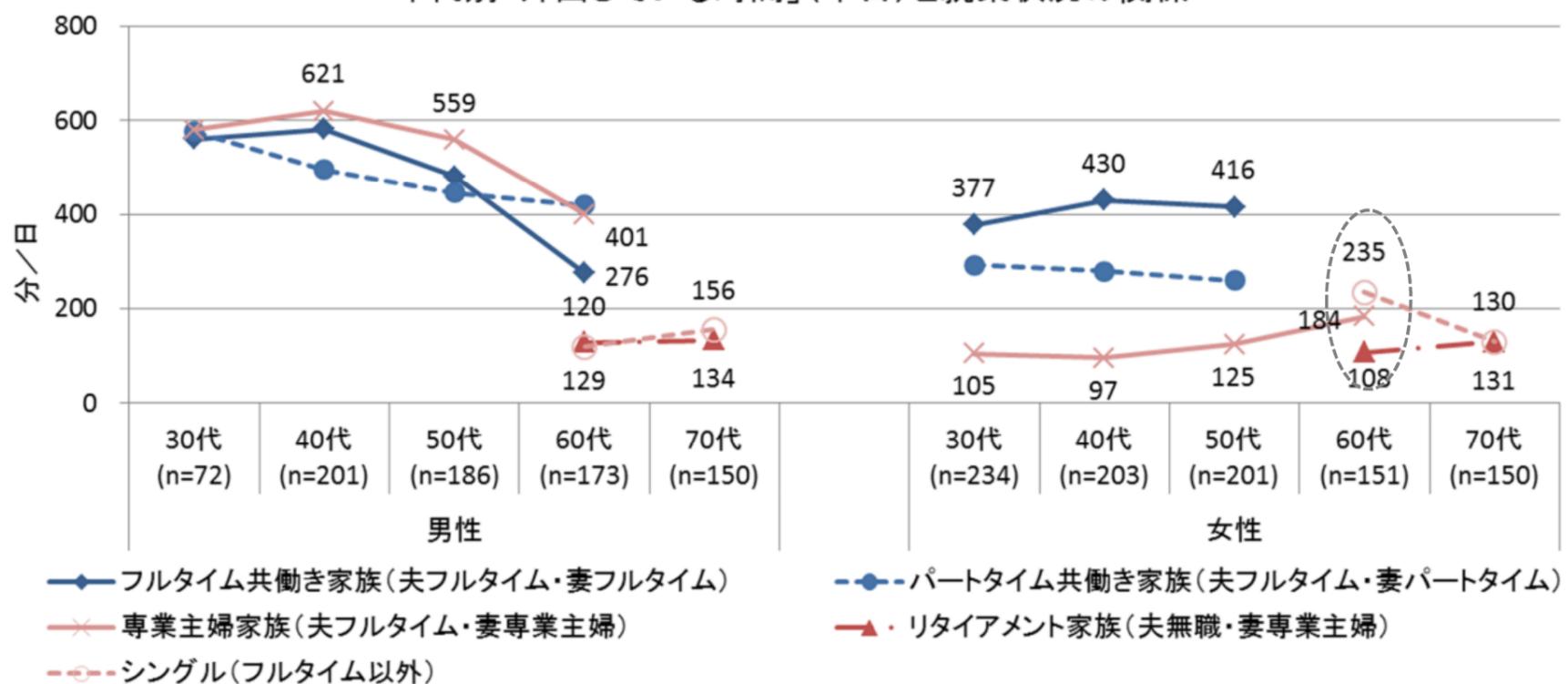
【参考データ3】年代別夫婦の就業状況と生活時間：平日「趣味や好きなことをする」「外出」
専業主婦家族の60代女性は、自由な時間を家の中よりも外で過ごす

平日に「家で趣味や好きなことをする時間」は、男女ともにリタイヤメント家族、シングル（フルタイム以外）が長くなります。年代が高くなるにつれて、特に女性は「家で趣味や好きなことをする時間」が長くなりますが、専業主婦家族は60代で50代よりも44分/日短くなるのがわかります。一方、「外出している時間」を見ると、専業主婦家族の女性は50代から60代にかけて59分/日が長くなり、専業主婦家族の60代女性はリタイヤメント家族の60代女性と異なり、自由な時間を家の中よりも外で過ごすことが多いようです。

年代別「家で趣味や好きなことをする時間」(平日)と就業状況の関係



年代別「外出している時間」(平日)と就業状況の関係



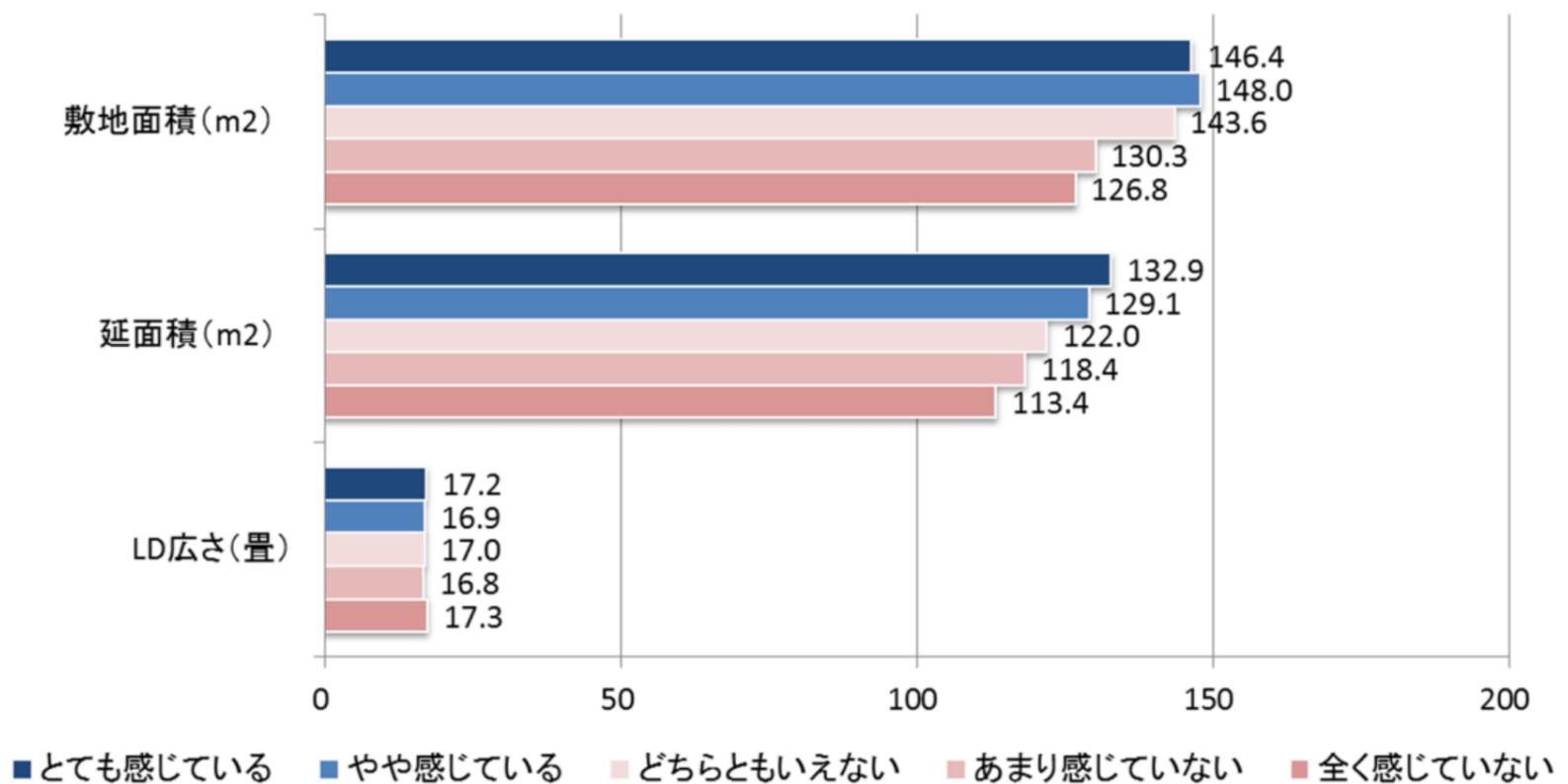
1.暮らしに豊かさを感じるということ

自宅建物の特徴1

暮らしの豊かさを感じる人の自宅の延面積は大きい

暮らしに豊かさを感じる人ほど、自宅の敷地面積や延面積が大きい傾向があり、特に延面積で顕著です。リビングダイニング（LD）の広さは関係が見られませんでした。

暮らしに豊かさを感じる度合いと自宅の面積関係



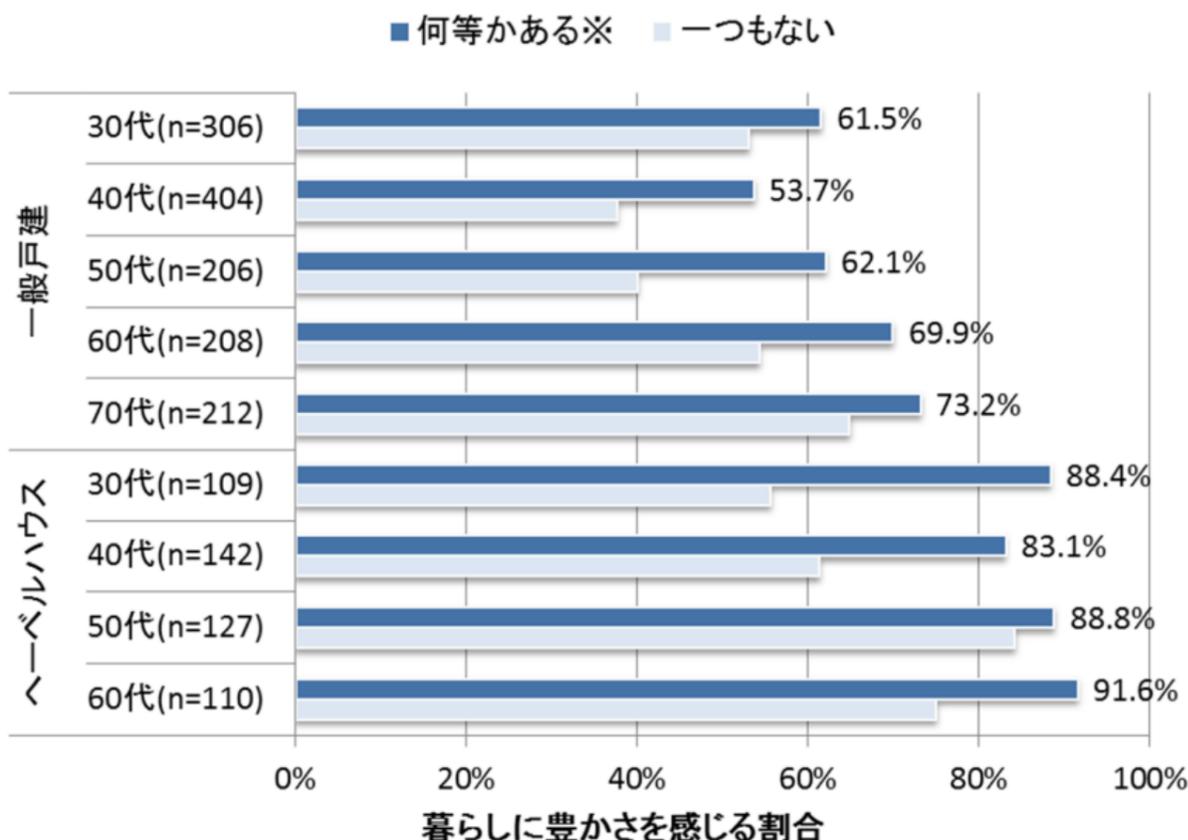
※面積は、カテゴリ変数の中央値を採用し平均したものの。

自宅建物の特徴2

リビング吹抜けやスタディコーナー等の特徴あるスペースがある場合に豊かさを感じる

自宅内に特徴あるコーナー・スペースがある場合には、どの年代でも豊かさを感じる人が多く、特にヘーベルハウスでは30代で差が大きいことがわかります。

具体的なスペースとしては特に、自宅のリビングに吹抜けやテラス・デッキ、スタディコーナー、リビング外の書斎がある場合に顕著です。自宅にお気に入りの場所、ゆとりの場所がある場合には豊かさを感じると言えるでしょう。



※
リビング上の吹抜け、
リビングから直接出るテラスやデッキ、
リビングと連続した和室や畳コーナー、
リビング内階段、
リビング内スタディコーナー、
リビング外の書斎、
屋上、
地下室
の内何等かがある

(ヘーベルハウスは70代の対象者が少ないため割愛)

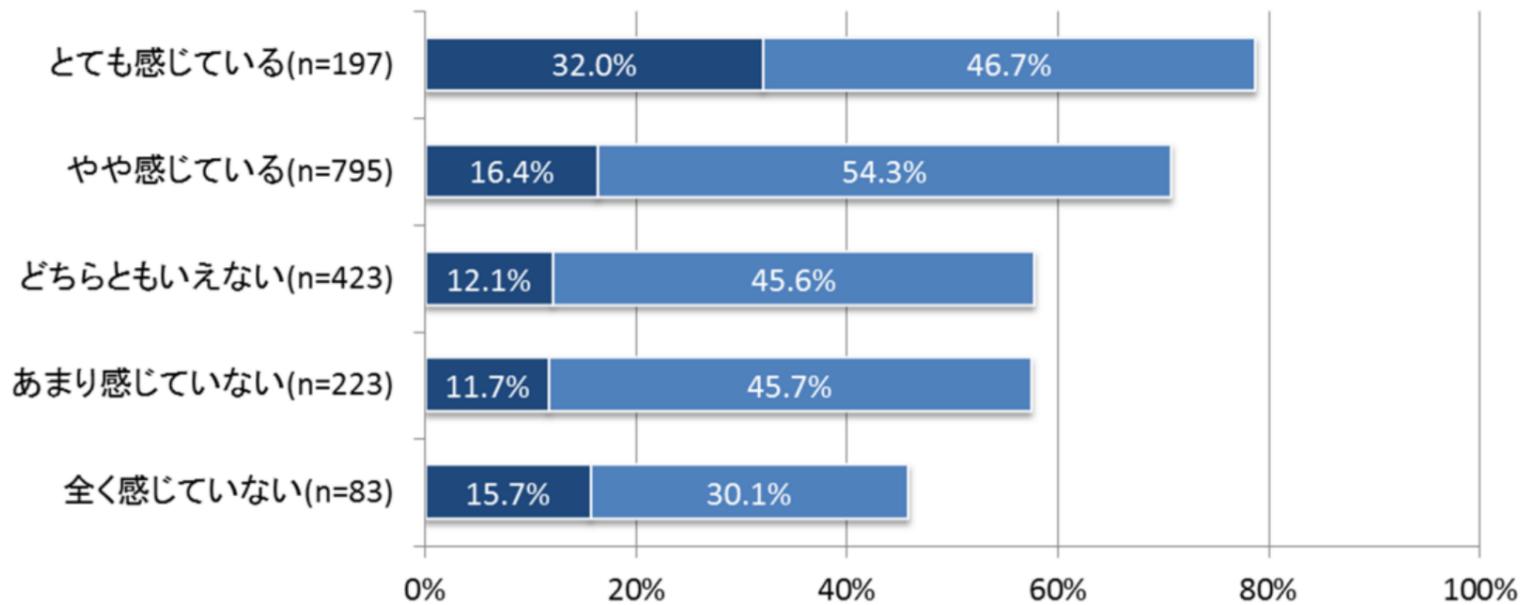
1.暮らしに豊かさを感じるということ

省エネルギーに対する取り組みとの関係 暮らしに豊かさを感じている人は、省エネルギーにも積極的

暮らしに豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組みの関係についてみると、豊かさを感じる人ほど省エネルギーにも積極的に取り組むことがわかりました。

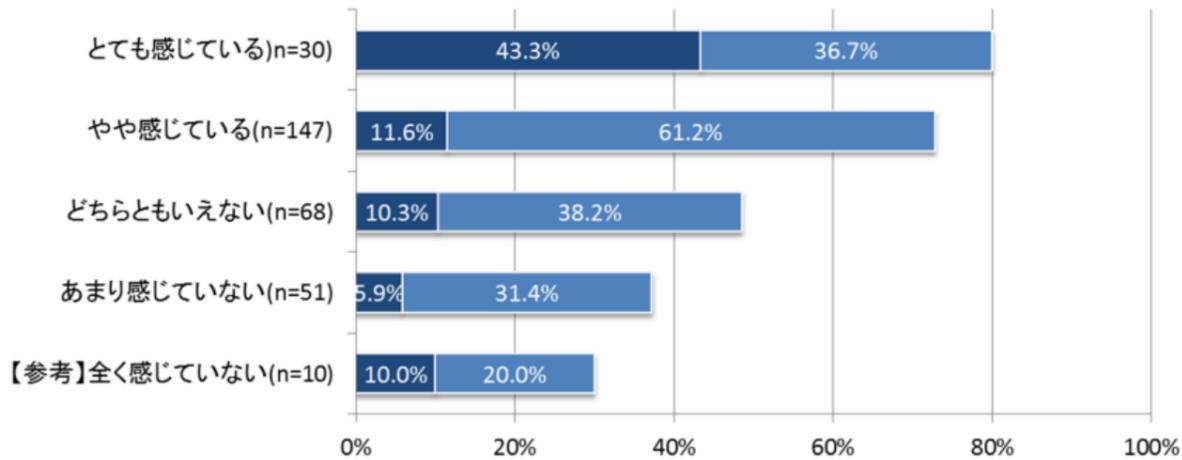
同様の傾向は、年代別にみても現れます。一例として30代、60代を対象とした結果からも、豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組み度合いが関係性を持っていることがわかります。つまりこのことは、別途確認している「60代が省エネルギーに積極的」であることの疑似相関ではないと言えます。豊かさを感じることは、健康を気遣い、自然や四季の移り変わりにも敏感になり、地球環境に思いを寄せることになるのかもしれませんが。

暮らしに豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組み

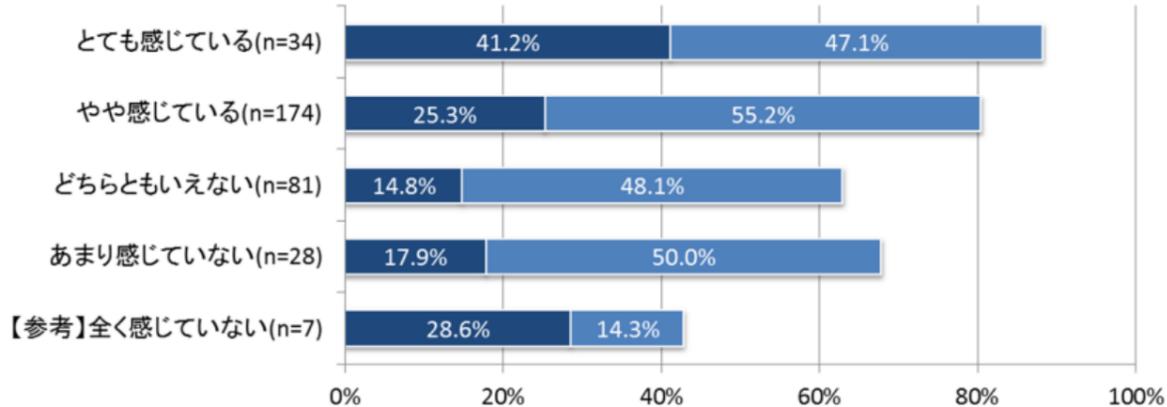


■ 積極的に省エネルギーに取り組んでいる ■ どちらかといえば省エネルギーに取り組んでいる

豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組み (30代)



豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組み (60代)



■ 積極的に省エネルギーに取り組んでいる ■ どちらかといえば省エネルギーに取り組んでいる

1. 暮らしに豊かさを感じるということ

自宅での暮らしの中で満足していること

豊かさを感じている人は、住まいや健康的な暮らし、家族関係、充実感に満足している割合が高い

自宅での暮らしで豊かさを感じている人は、総じて暮らしの中での満足度も高い傾向があります。（5%未満で有意）

特に以下の項目は、豊かさを感じている人の満足の割合が、全体の満足の割合よりも高いものです。

（表中の割合(%)は、豊かさを感じている人と回答者全体の人が「とても満足」している割合です。）

住まいへの満足	豊か	全体	健康的な暮らしへの満足	豊か	全体
明るさ(採光)	82.8%	72.9%	規則正しい生活をする	74.3%	62.3%
風通し	79.7%	67.9%	栄養バランスの良い食事をする	76.3%	62.6%
敷地や建物の広さの確保	72.7%	61.8%	自分が健康である	77.5%	64.2%
空間のゆとりがある	72.2%	57.2%	家族が健康である	85.1%	73.7%
住まいへの愛着がある	77.8%	63.6%			
家族関係への満足	豊か	全体	人生の充実感への満足	豊か	全体
子との関係が良い	84.1%	73.7%	人生が安定している	75.3%	56.0%
孫との時間がある	58.9%	48.8%	自己実現ができている	65.8%	50.1%
夫婦の時間がある	79.1%	66.5%	趣味などが充実している	70.4%	55.5%
夫婦関係が良い	82.8%	69.6%	打ち込めるものがある	72.0%	57.6%
家族全員の時間がある	76.3%	64.3%	好きなことができる時間がある	81.5%	67.5%
夫婦が自立している	63.9%	51.9%	好きなことができる経済的余裕がある	64.2%	46.0%
家族と一緒に家事をする	66.8%	57.2%	家で集中して仕事・勉強ができる	59.7%	46.9%
周囲環境への満足	豊か	全体	ゆったりとした時間への満足	豊か	全体
治安の良さ	79.5%	69.9%	ひとりで過ごす時間がある	78.5%	67.6%
自然を楽しむことへの満足	豊か	全体	ゆったりと過ごす時間がある	76.2%	61.7%
庭の樹木や花、生き物を眺める	70.8%	58.5%	時間のゆとりがある	73.0%	58.8%

※豊かさを感じている人と回答者全体を比較して、「とても満足」の回答割合(%)の差が四捨五入して5ポイント以上、

かつ「満足(とても+やや)」の差が10ポイント以上を抽出。対象は一般戸建居住者n=1721

※設問に該当しない場合は、母数に含めずに割合を算出

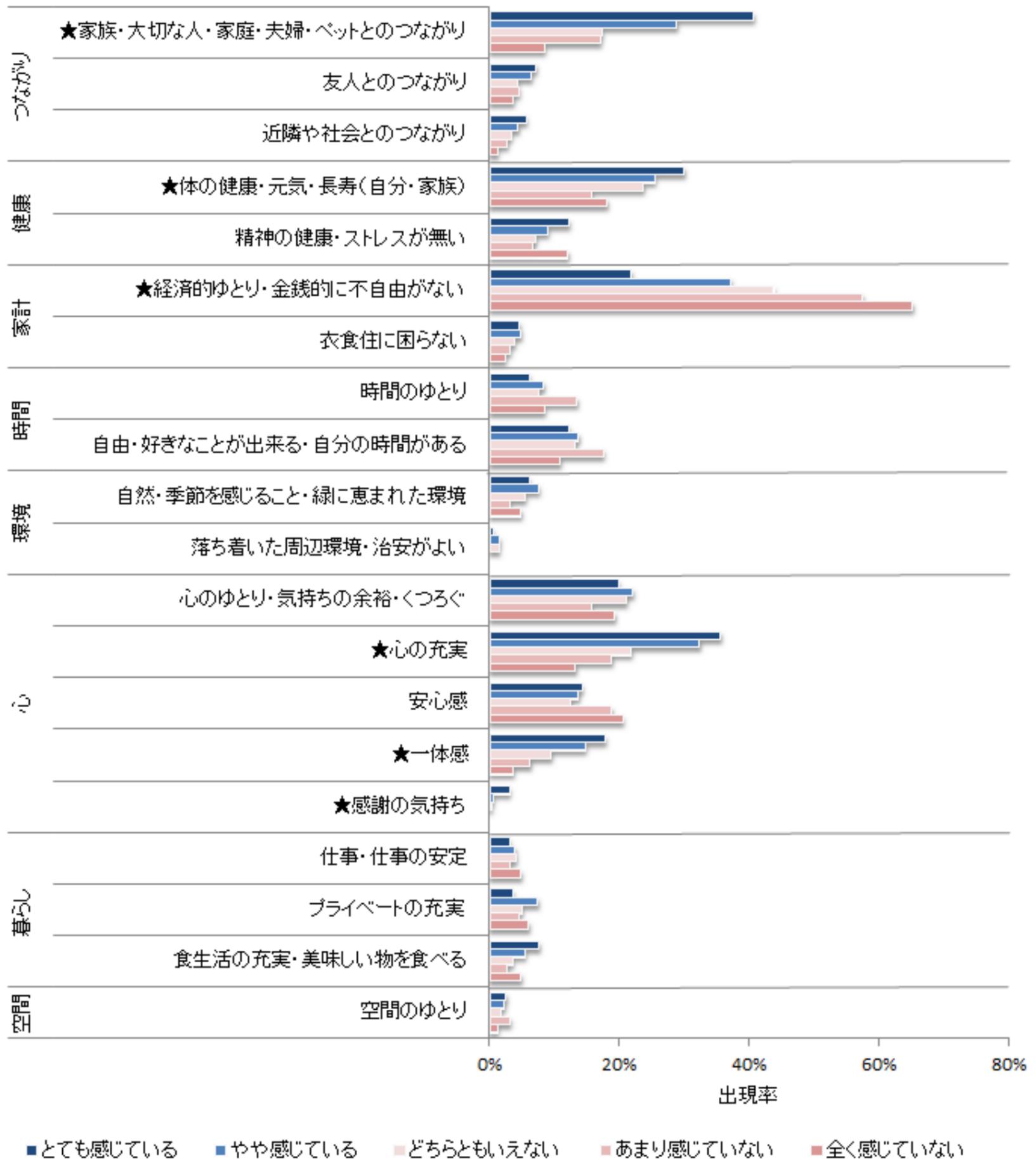
1.暮らしに豊かさを感じるということ

あなたにとって「豊かに住まう」とはどのようなことですか
 豊かさを感じている人は「家族のつながり」「体の健康」「心の充実」「一体感」を感じている

あなたにとって、「豊かに暮らす」とはどのようなことですか？という問いに対して自由に記述された文章は8つのカテゴリに分類され、それぞれにいくつかのキーワードが現れました。

豊かさを感じる度合い別に、キーワードの出現率を見ると、「家族のつながり」「体の健康」「心の充実」「一体感」「感謝の気持ち」は豊かさを感じている人に多く現れます。一方、「経済的ゆとり」は豊かさを感じている人ほど現れることが少ないということがわかりました。

■ 自宅で「豊かに住まう」ことに現れるキーワードと豊かさを感じる度合いの関係



★5%有意水準で有意

1.暮らしに豊かさを感じるということ

■ あなたにとって豊かに暮らすとはどのようなことですか 自由記述の例

つながり 家族・大切な人・家庭・夫婦・ペットとのつながり

家族にめぐまれ、お互い助け合いながら、仲睦ましく暮らすこと。個人としては、自立しつつ自分の好きな世界（趣味やスポーツ）に没頭できること。（50代女性）

贅沢はしなくて良いが、家族が健康で暮らせる家があり、その家に帰るとホットできる場所があること。（60代男性）

70を超えると物質面で求めるより精神的・肉体的な面で豊かさを求める。たとえば日々の朝、夫婦笑顔でお早うと挨拶かわし朝食をとれる幸せ感。（70代男性）

健康 体の健康・元気・長寿

心身ともに健康でいられる。また、家で過ごすことに、くつろぎと癒しを感じられる。（40代女性）

家族が健康に楽しく暮らすこと。経済力も生活にあった程度なければ今の社会を生き抜くことはできないと思うので、やはり経済力も必要になると思う。（30代女性）

家族が健康で仲良く過ごせる事。（30代男性）

家計 経済的ゆとり・金銭的に不自由がない

経済的な余裕があって、日々の生活を楽しめること。具体的には、旅行に出かけたり、美味しいものを食べたりすることが、大切な人と一緒に無理することなくできること。（50代男性）

生活環境に満足できる住宅であり、世間の生活の上を行くこと。（50代男性）

家族に笑顔が溢れ、何不自由なく、健康に毎日が過ごせること。お金にも不自由せず、家族のやりたいことを何でもさせてあげられること。毎年の海外旅行をこれからも続けられること。（40代男性）

心 心の充実

衣食住はシンプルにしつつも趣味(時間)を持ったり、旅行に行くなど自分にとって充実した時間を過ごす余裕があること。（40代女性）

仕事と私生活の線引きが確実に出来ること。オンとオフをしっかり切り替えて生活出来る暮らし。休みの日は、自宅で趣味に没頭出来る住環境を維持出来る。ストレス無く健康で快適な一定以上のレベルの暮らしが出来る事。経済的な問題以上に心の充実感を得られる。（50代女性）

暮らし 食生活の充実・美味しいものを食べる

大事な家族と、家具道具を慈しみ、庭を愛で、食事にもこだわりを持って生活する。（30代男性）

使いやすい家電がそろっていて、部屋がいつも快適にきれいになっている。みんなが集まる。笑っている。いつでも、おなかいっぱい。（30代女性）

1.暮らしに豊かさを感じるということ

自宅で豊かさを感じる光景

1位は「家族・孫と過ごす、眺める」46.1% 2位は「食べる・食事する」23.2%

豊かさとは、長い時間にわたり感じられる豊かさ、あるひと時に感じる豊かさがあると考えています。自宅で過ごしているときに、「豊かさ」を感じられた光景はどのようなものでしょうか？という問いに対して自由に記述された文章に現れる行為を分類すると、出現頻度は次のような順位になりました。

■ 自宅で豊かさを感じる光景

1位 家族・孫と過ごす、眺める（46.1%）

2位 食べる・食事する（23.2%）

3位 イベント・行事を楽しむ（19.9%）

4位 人を招く、帰省する（15.4%）

5位 趣味、好きなことをする（15.3%）

6位 会話する（10.1%）

7位 庭や屋上で過ごす（9.1%）

8位 庭仕事をする（8.2%）

9位 外を眺める（7.4%）

10位 ぼーっとする・のんびり（6.1%）

一般戸建居住者 n=1721



1.暮らしに豊かさを感じるということ

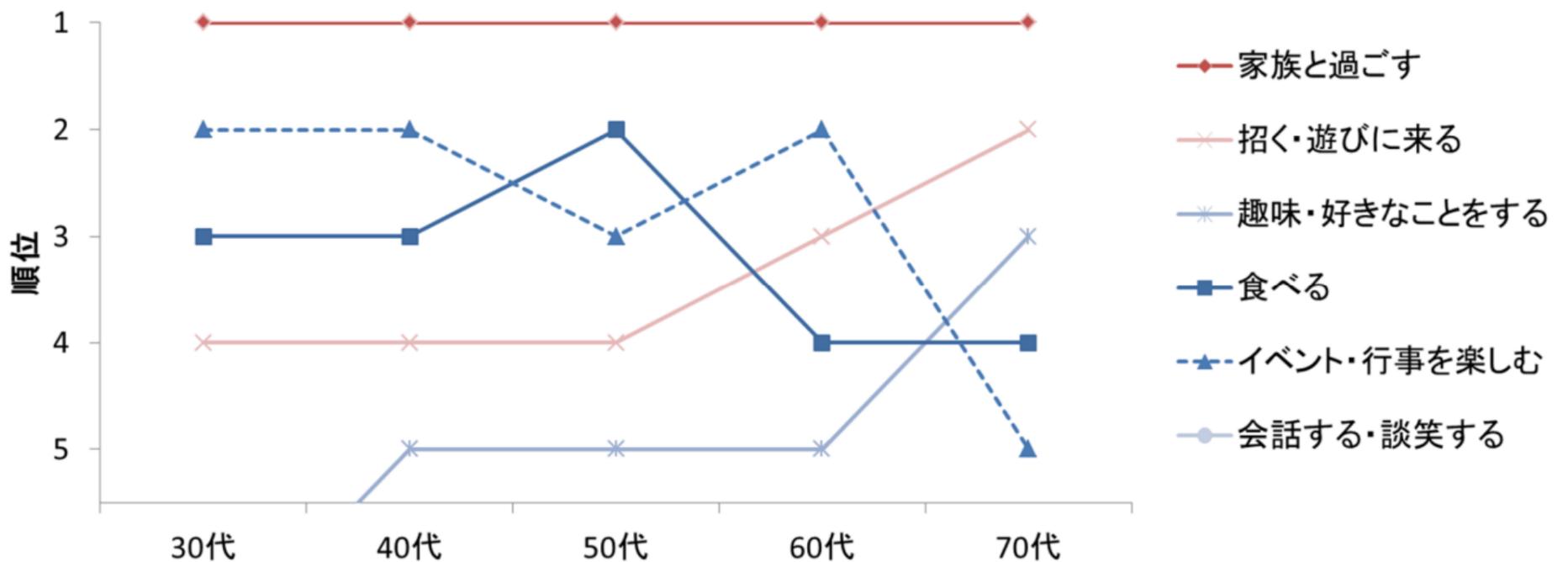
自宅で豊かさを感じる光景の性・年代別特徴

自宅での豊かな光景に現れるのは終始一貫して家族志向、年代と共に自分志向に

自宅での豊かな光景について、男性も女性も一貫して「家族と過ごす」光景が1位です。
 女性では、50代まで「食べる」が2位ですが60代では5位になり、一方で「趣味・好きなことをする」は40代の5位から上昇し、70代で2位となります。
 男性は40代から60代まで「趣味・好きなことをする」が5位ですが、リタイヤメント時期を迎える70代では3位に上昇する様子が見られます。

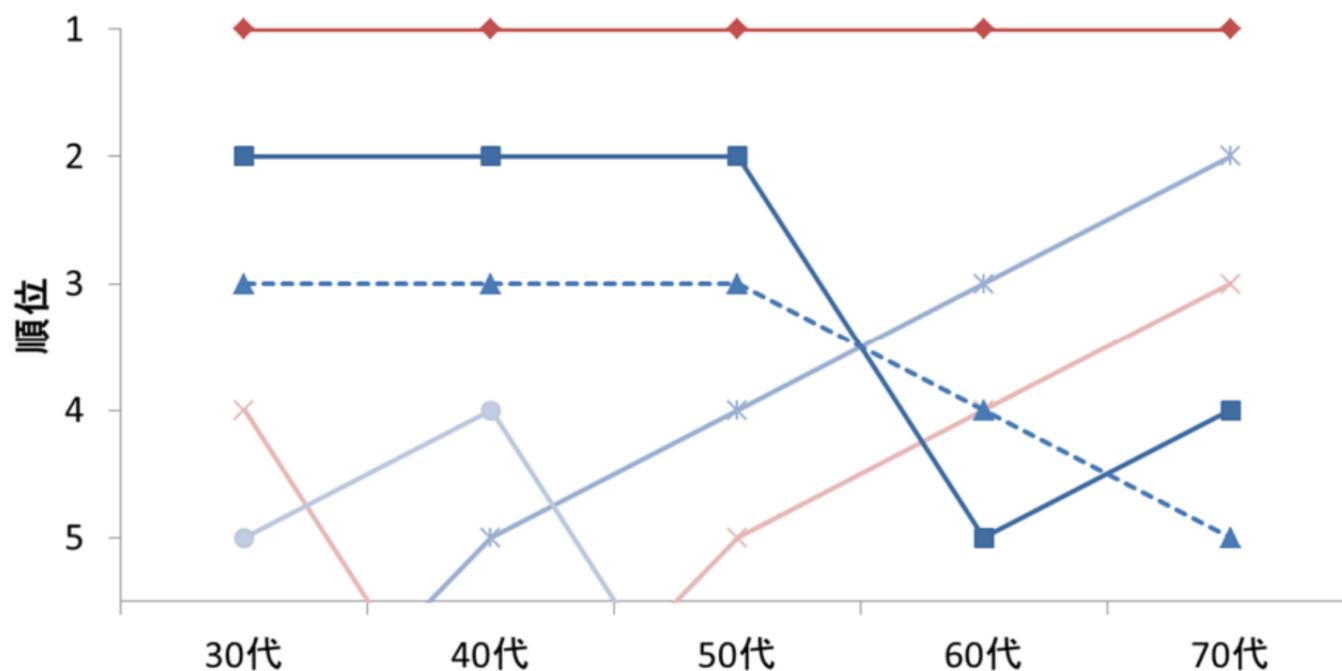
一般戸建 男性

家族志向は50代で低下、60代以上で増加するV字型



一般戸建 女性

年代が高くなるほど外向き・自分志向に



■自宅で過ごしているときに「豊かさ」を感じる光景 自由記述の例

行為 家族・孫・ペットと過ごす、眺める、気配を感じる

朝、子どもたちが学校に行くとき、玄関で靴を履いているところ。一人で学校に行けるようになるまで大きくなったのだなあとしんわりと豊かさを感じます(30代女性)

妻と一緒に、夏休みの旅行の計画をしたり、予約をした。一緒に休みを過ごすための調べ物や計画をする時間は、貴重で楽しい。(30代男性)

サーフィンをしながらか獲ったハマグリをBBQで食べながら、傍らで子供達が芝生に転がりながら水遊びをしている姿をみている時に豊かな気持ちになった。(30代女性)

孫を連れて子供が遊びに来ているとき。孫が絵を描いてくれる時。(60代女性)

行為 庭仕事をする

月に一度くらい食事にきて楽しい夕飯をする。庭にさいた向日葵などに水やりをして、そのうち孫の水遊びに移行してしまう。いい時間だとおもいます。(60代女性)

広い庭で夫が息子とチャッチボールをし、愛犬がこぼれ球を追いかけて、それをくわえて戻ってくる。その時、私と娘は家庭菜園で作った野菜を収穫している。こんな何気ない日常に、豊かさを感じた。(30代女性)

行為 食べる

旬の食材を自分の好みに調理して食べる。趣味を行う空間が家にある。(50代女性)

朝起きたときには小鳥のさえずりが聞こえ、庭には自分で育てた野菜がすくすく育っている。主人とは食事のときは一緒に会話をしながら楽しむ一方、それぞれの時間を楽しむためにも自分用の部屋がある。(30代女性)

自分が仕事の習い事てくたくたで、家族との時間もとれない時、夫と娘が帰ってきた私にサプライズでケーキを用意してくれて、私も家族にお疲れ様のケーキを買って、沢山のケーキがならんで、家族の気持ちが凄く嬉しかった時(30代女性)

行為 イベント・行事を楽しむ

正月にお塗りの漆器などでしつらえた食事ができること。(50代女性)

旦那の両親と楽しくバーベキューをしたことが、なんて平和で幸せなんだろうと思った(30代女性)

大みそか・正月・祖父母の誕生日・喜寿など ことあるごとに親戚が祖父母の家にあつまると。にぎやかでおいしいものが並ぶ。子供4人・孫11人みんな健康で、孫が一人ずつ独立していくのもうれしい。(50代女性)

夏祭りの後の近所の子供と孫達の花火を見ながら、近所の親と一杯飲むこと。地藏盆の行事が終わればもうすぐ2学期、孫の宿題のチェック、それが終わればトップリングの日程確認とチケット手配と正月までのラグビー観戦の為休日確保、その他は家でただ寝るだけが楽しみ(60代男性)

1.暮らしに豊かさを感じるということ

意識 健康であること・元気

仕事のわずらわしさなどきれいさっぱり忘れ、庭仕事に精励する。流した汗が心地よい疲労になると、一杯ひっかけて趣味にうつつをぬかす。今日も元気だ、食事がうまい(50代男性)

孫の桃節句に娘のひな飾りを出し、4世代でお酒が飲めた健康である幸せ。(50代女性)

子供が家の中で走ったり踊ったりすごく楽しそうに生活している事すべてに豊かさを感じています。今ある私も両親のおかげ。今できている生活も働いている主人のおかげ。子供に恵まれた事が何よりの幸せで、互いの両親に幸せな生活を見せてあげられていることが唯一できている親孝行。私を助けてくれて支えてくれる友人が身近にいること。今日生きるお金を心配せずに使える事。そして何よりも一番は健康でいられる事です(30代女性)

意識 子・孫の成長を感じる

子供たちが年々大きくなっていき、自分の意見や話をしっかりしている姿をみていると将来の楽しみがあり、家族で過ごしている毎日に毎日変化があり充実した気持ちになること(30代女性)

行かせたかった私立学校を小学校から高校まで通い、卒業し、大学にも合格した娘が「12年間よかった」と言ってくれたこと。(50代男性)

意識 家族の仲がよい

ある程度の経済的余裕もあり、家族間の関係も良く健康で、年齢的に夫も時間の余裕が出来て、一緒に時々のおんぴりと旅行ができるのでうれしく思っています。(60代女性)

子どもとの関係がよく、完全な二世帯住宅ではないが、二世帯のプライバシーを保つには十分である。家族構成は今がMAXであり、今後、減少していくと考えられ、無駄な住宅投資をしなくて済んだのもエコの点から満足している。(60代女性)

同居している弟が単身赴任となったことにより、義妹とのつながりが強くなった。お互いが支えあうことが自然とできるようになった。(50代女性)

家族全員が集まり、屋上で食事をしながら花火を楽しむときに、この家を建てたこと、いい家族に恵まれたことで豊かな気持ちになる。(60代男性)

意識 食に手をかける暮らし

自分で仕込んだ塩麴と梅味噌に漬けておいた鶏肉を、オーブンでバツと焼く。冷奴には庭から摘んできた再生小葱と勝手に生えてるシソと茗荷、自家製の梅味噌も好みで。去年仕込んだ黒糖梅サワーを焼酎と炭酸で割る。さっき主人がもいできたキュウリも並べる。狭い庭なのに結構摂れるねと話しながら、家族で食事。勝手に生えてきたトマトとピーマンも実が付いてきた。なんか、にんまりする。(50代女性)

少々の家庭菜園を夫婦で作って、他の場所に住む孫たちと一緒に収穫し、それを料理に入れ、みんなで一緒に食事を楽しんでおり、また、少々の果実の熟れるころを孫たちと一緒に楽しみに見上げている。(60代男性)

梅酒やピクルスを漬けたり、やパンを作ったりして、それを家族と一緒に食べたり飲んだりするとき、良いなと感じる。(30代女性)





2. 豊かに住まうために大切と感じる 意識の構造



2. 豊かに住まうために大切と感じる意識の構造

豊かに住まうために大切な6つの要素とは

「豊かに住まう」ためには、暮らしの基盤の上に、自己実現、人や自然との関係性を築くことが大切

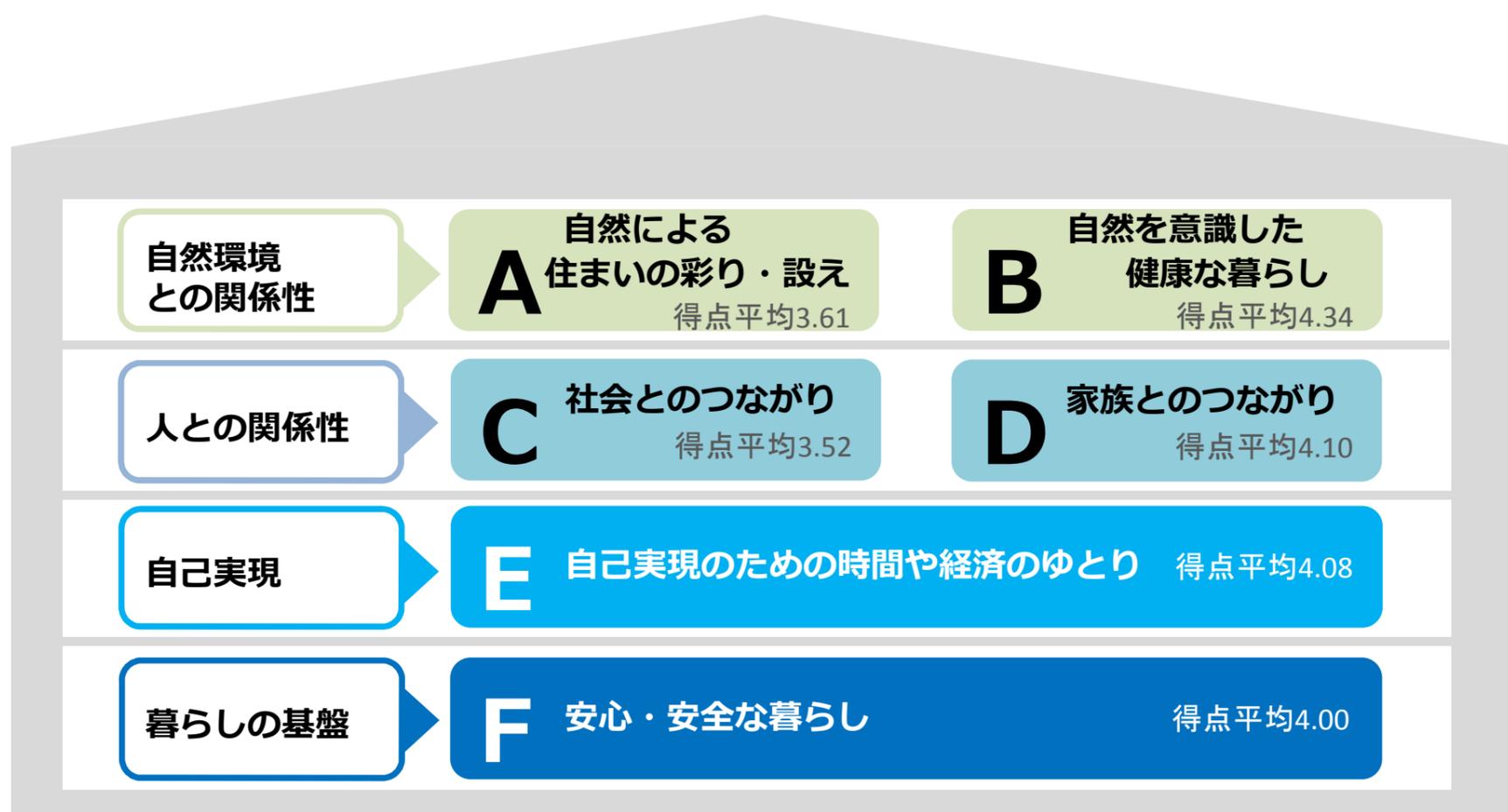
一般戸建て居住者への調査結果より豊かに住まうために大切なことは、「暮らしの基盤」「自己実現」「人との関係性」「自然環境との関係性」の4分類、6つの要素があることがわかりました。

「自然環境との関係性」は、自然や季節の変化を感じ、それを住まいに採り入れることで暮らしを彩るような豊かさ（A.自然による住まいの彩り・設え）と、風・光などの自然のリズムに感じ、健康に暮らす豊かさ（B.自然を意識した健康な暮らし）の二つは、別のものとして意識されています。

また、時間や経済のゆとりは、自己実現と結びつき豊かな人生をつくり出すために必要な要素Eであり、住宅建物性能や周辺環境、社会経済の状態は一体となってF.安心・安全な暮らしを支えていることもわかりました。

大切さの傾向としては、B.自然を意識した健康な暮らしが最も強く、次いでD.家族とのつながり、E.自己実現のための時間や経済的なゆとりと自分を中心として内側的な要素が強いことがわかります。

■豊かに住まうための大切な要素



対象:戸建居住
30代~70代男女

91問5件法による因子分析結果より
平均得点は5点満点で、
5は「とても大切」、4は「やや大切」

2.豊かに住もうために大切と感じる意識の構造

(参考)豊かに住もうために大切なことに関する設問 時間のデザインと空間のデザインを意識した91項目

先の分析のもととしたのは、以下の豊かさに住もうために大切だと考えられる項目です。空間のデザイン、時間のデザイン（長期にわたって存在する項目からひと時を過ごす項目）を考慮して91項目を設定、それぞれ5段階で「とても大切」から「全く大切でない」までの評価を用いて因子分析を行っています。

	大切な要素	大切な要素	
住環境	1 日当たり B	家族	1 子どもと一緒に過ごす時間がある D
	2 明るさ(採光) B		2 孫と一緒に過ごす時間がある D
	3 風通し B		3 夫婦と一緒に過ごす時間がある D
	4 敷地や建物の必要な広さの確保 -		4 親・祖父母と一緒に過ごす時間がある D
	5 敷地の樹木・草花 A		5 兄弟姉妹と一緒に過ごす時間がある D
	6 交通の利便性 -		6 ペットと過ごす時間がある -
	7 自宅周辺の緑の豊かさ B		7 家族全員と一緒に過ごす時間がある D
	8 教育施設の充実 -		8 既婚の子や孫と同居する D
	9 医療施設の充実 F		9 夫婦が互いに自立している -
	10 商業施設の充実 F		10 子どもとの関係が良い D
	11 文化施設の充実 -		11 夫婦の関係が良い D
	12 地域の治安の良さ B		12 親との関係が良い D
住宅建物	1 建物の耐震性 F		13 家族で一緒に家事をする D
	2 建物の耐火性 F		14 家族で家事を分担する D
	3 建物の断熱性 F		15 子や孫の成長を感じる D
	4 建物の遮音性 F	友人・地域	1 友人と過ごす時間がある C
	5 建物の耐久性 F		2 親しい友人がいる C
	6 防犯性の確保 F		3 頻繁に連絡を取る友人がいる C
	7 冬に暖かい F		4 SNSでつながる友人がいる C
	8 夏に涼しい F		5 参加しているネットコミュニティがある C
	9 屋外からのプライバシーの確保 F		6 近所に住む人たちとの関係が良い C
	10 建物のメンテナンスがきちんとされている F		7 隣家との関係がよい C
	11 住宅メーカーのアフターサービスがしっかりしている F		8 町内会やPTAの知り合いとの関係がよい C
	12 土地、建物を子や孫へ住み継ぐ F		9 地域に貢献する C
	13 土地、建物の資産価値が持続する F		10 地域行事に参加する C
	14 住まいへの愛着 F	人生の充実	1 社会的な地位が高い -
	15 家族の思い出をとっておく D		2 収入がよい/経済的なゆとりがある E
	16 暮らしにあったリフォームをする F		3 持ち家がある -
健康	1 規則正しい生活をする B		4 十分な資産がある E
	2 栄養バランスの良い食事がとれている B		5 人生が安定している E
	3 自分が健康である B		6 人生の目標/ライフワークをもっている E
	4 家族が健康である B		7 人から認められる、尊敬される E
室礼	1 いつも部屋の整理整頓ができている A		8 自己実現(したいことをしている) E
	2 自分の好みのインテリアで暮らす A		9 社会貢献をする C
	3 自分のスペースを好みのもので飾る A		10 時間のゆとりがある E
自然	1 自宅で夕日や月の姿、星などを楽しむ A	11 一人で過ごす時間がある E	
	2 雛祭りや五月の節句など、季節の行事を楽しむ A	12 ゆったり過ごす時間がある E	
	3 季節の変化に合わせて、室内インテリアをしつらえる A	13 空間のゆとりがある E	
	4 季節ごと、味噌や梅酒・梅干し作りなどを楽しむ A	14 趣味などが充実する E	
	5 庭やベランダの樹木や草花、生き物を眺める A	15 自分が打ち込めるものがある E	
社会経済	1 エネルギー資源の供給に心配がない F	16 好きなことができる時間がある E	
	2 電気・ガス・水道がふんだんに使える F	17 好きなことができる経済的余裕がある E	
	3 エネルギーの自給自足ができる F	18 仕事や勉強が充実する E	
	4 非常時のエネルギー供給が確保されている F	19 家の中で集中して仕事・勉強等ができる E	
	5 景気が良い F	20 時間を有効に使う E	
	6 地球温暖化の心配がない F		

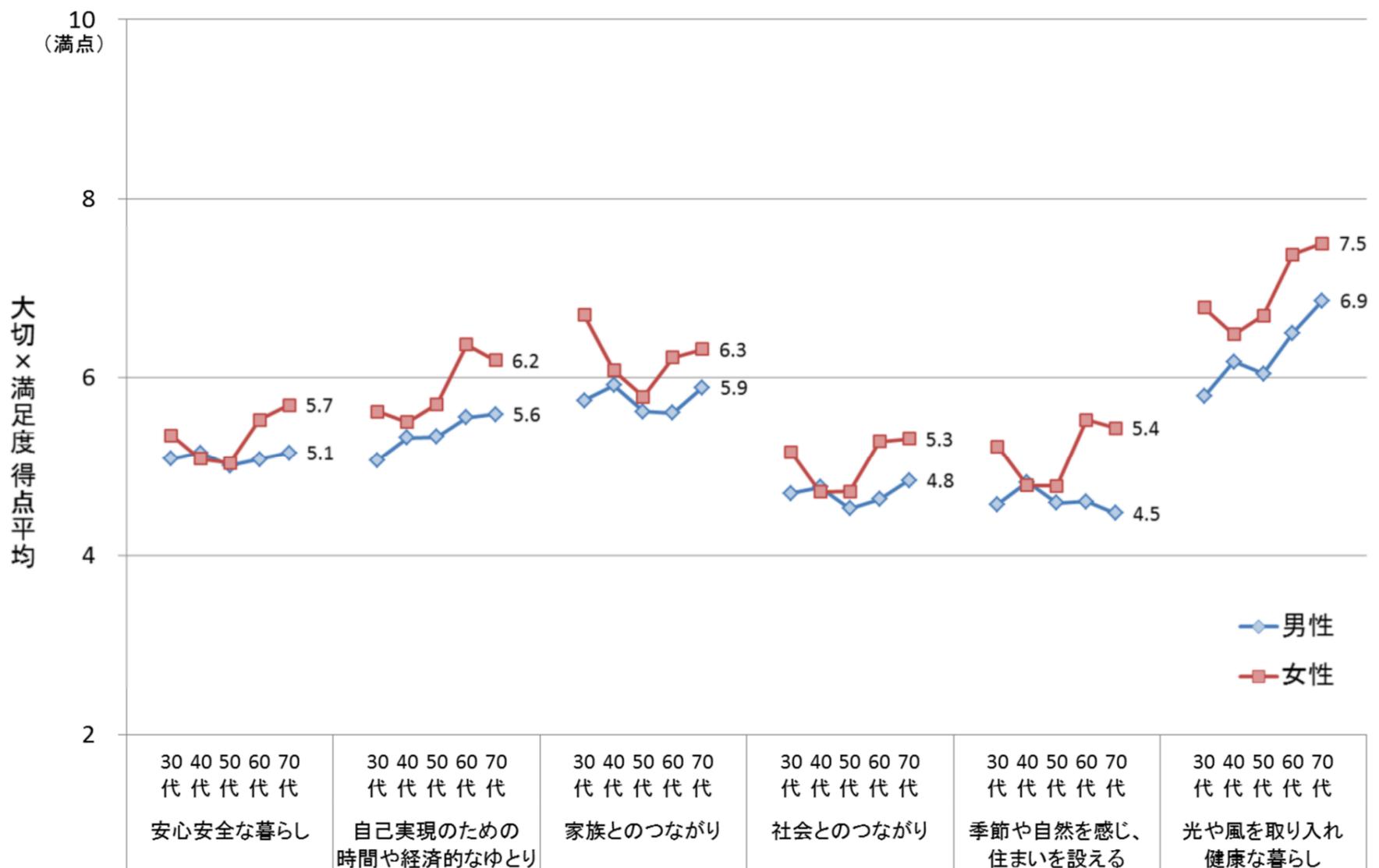
2.豊かに住もうために大切と感じる意識の構造

豊かに住もうために大切な6つの要素 性年代別「大切と感じる」傾向
 男性よりも女性の方が、豊かに住もうのために強く「大切」と感じていることが多い

豊かに住もうために大切な6つの要素それぞれについて表した大切さ得点指標（※）を性年代別にみると、一般的に男性よりも女性のほうが多くの要素が大切だと考える傾向が明らかとなりました。
 特に女性においては、30代よりも40代～50代にかけて低くなり、60代～70代にかけて高くなるという形をとっています。40代～50代女性は、暮らしに対して豊かさそのものも感じにくく（p.6参照）、暮らしのディテールにおいても大切と思う気持ちが他の年代よりも小さいようです。

（※）大切さ得点指標とは、「豊かに住もうために大切なこと」と、豊かさに大きく貢献していると考えられる「満足していること」の評価点（1～5）を掛け合わせ平均し、10点満点に換算した指標です。

豊かに住もうために大切な要素に対する性年代別の大切さ得点指標



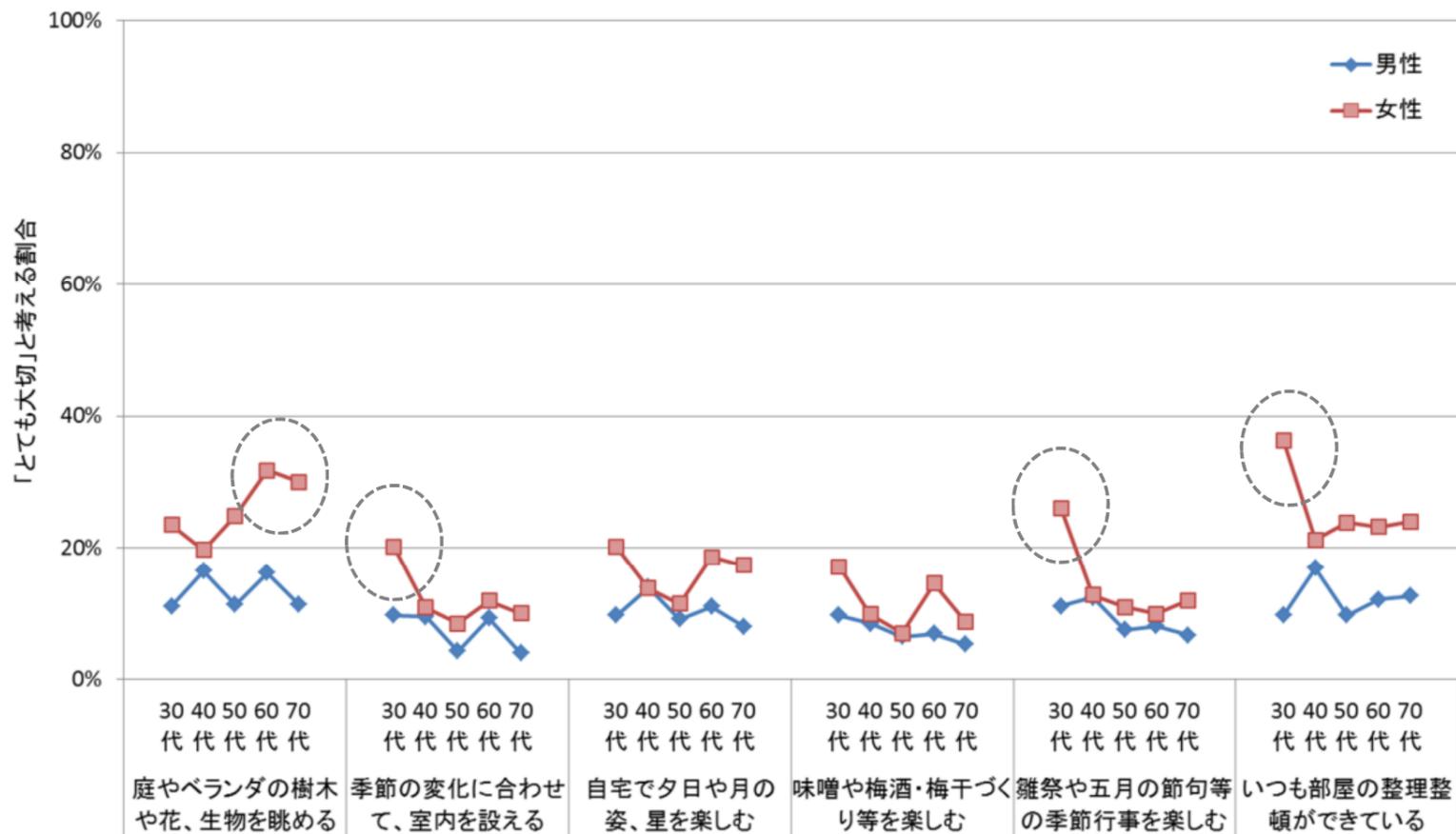
2.豊かに住もうために大切と感じる意識の構造

豊かに住もうために大切な要素 A.自然による住まいの彩り・設え

60-70代女性は「庭やベランダの樹木等を眺める」、30代女性は「季節の行事を楽しむ」

豊かに住もうために大切な6つの要素に含まれる内容について詳しく見てみましょう。A.自然による住まいの彩り・設えに含まれる内容については、「庭やベランダの樹木や草花、生き物を眺める」がとても大切と考える割合が高く、特に60代以上の女性で高い傾向があります。

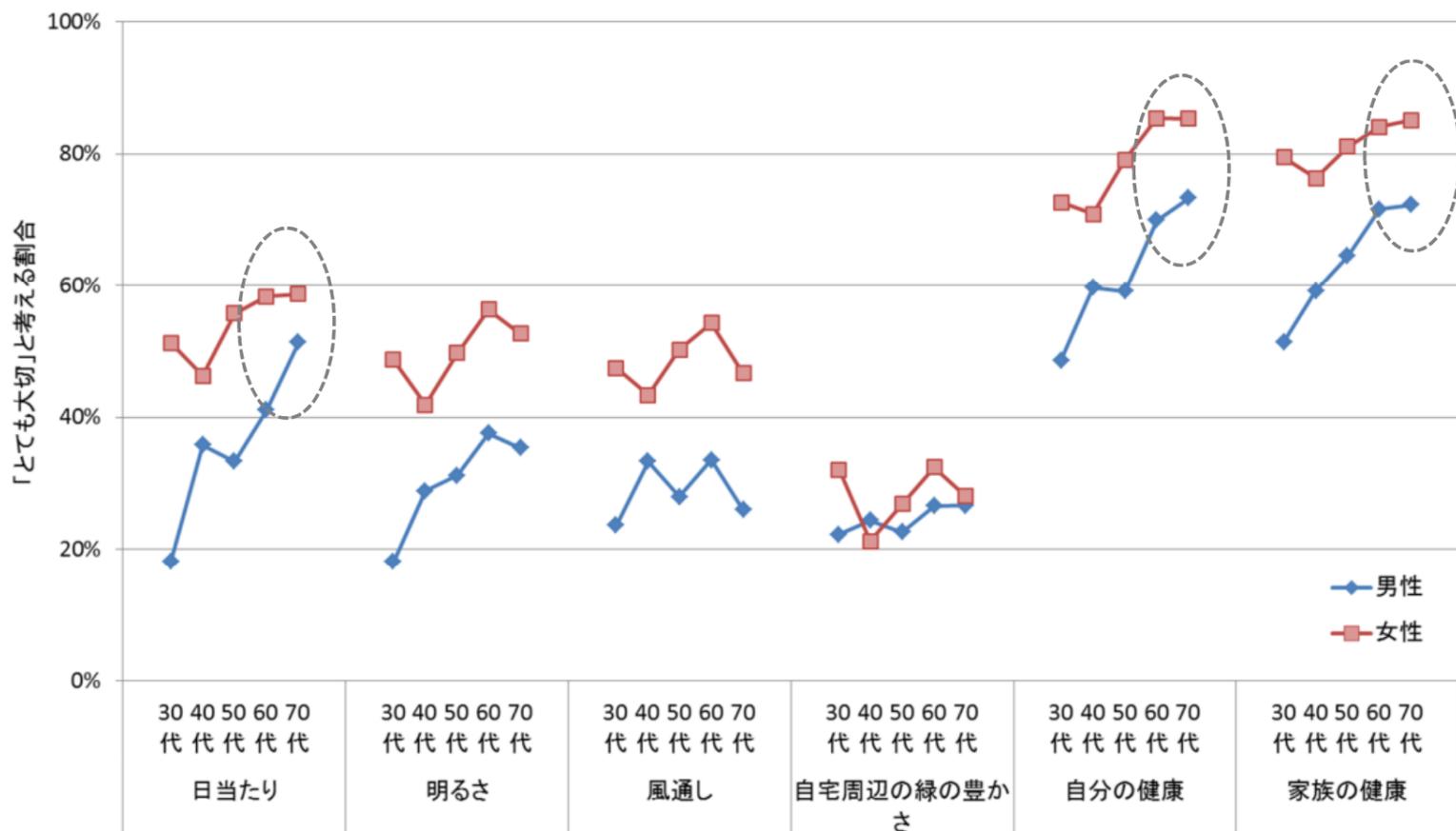
「季節の変化に合わせて、室内を設える」「雛祭や五月の節句等の季節の行事を楽しむ」「いつも部屋の整理整頓ができています」は特に30代女性に大切と考えられている様子が見られます。



豊かに住もうために大切な要素 B.自然を意識した健康な暮らし

特に60代、70代において「家族や自分の健康」がとても大切と感じる

「自然を意識した健康な暮らし」については、男女とも「家族の健康」「自分の健康」が高かつ、より60代、70代で高くなります。光や風は健康と結びついて豊かさを生み出し、特に「日当たり」を大切に思っていることがわかります。

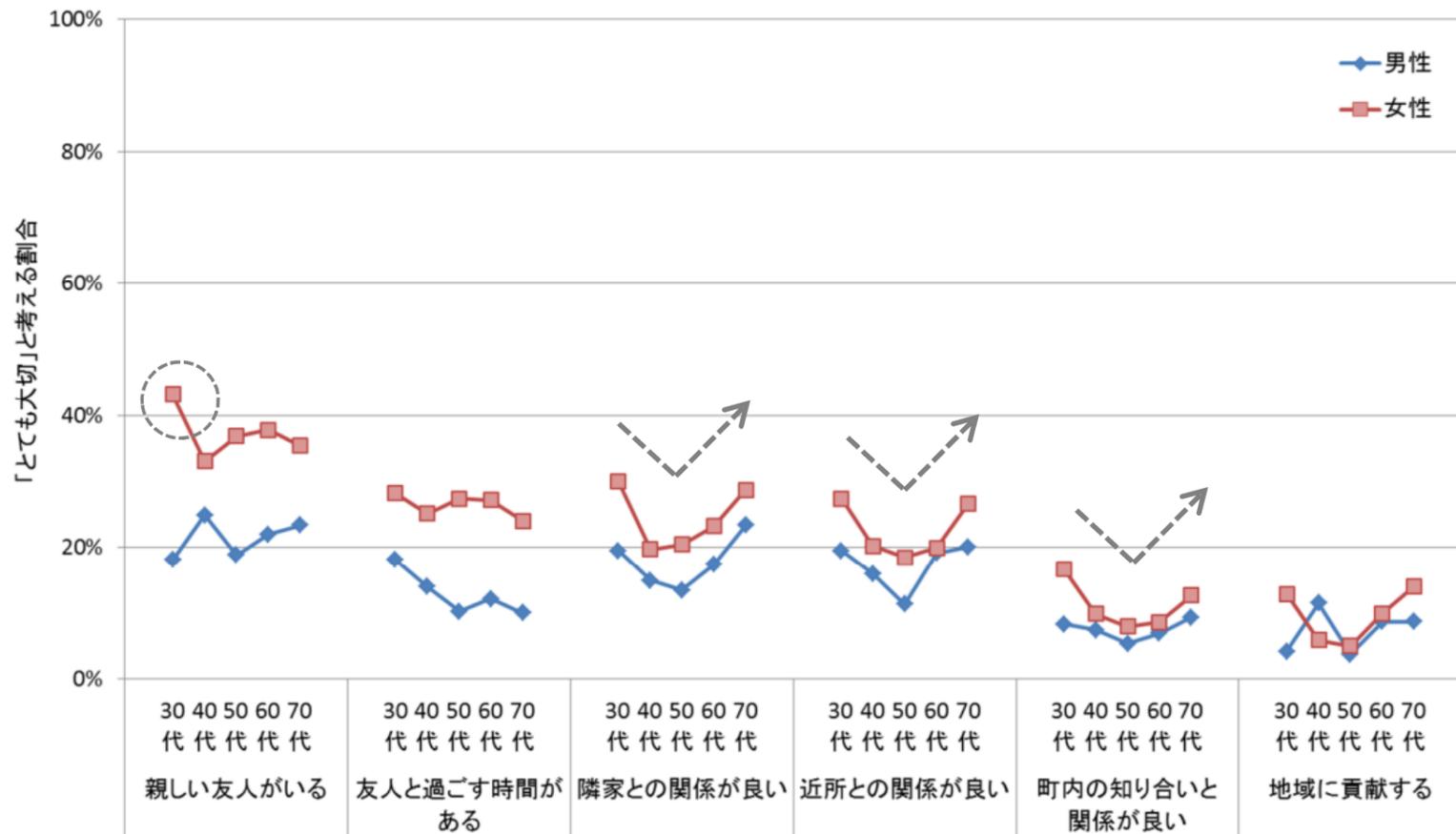


2.豊かに住まうために大切と感じる意識の構造

豊かに住まうために大切な要素 C.社会とのつながり

男女ともに「親しい友人がいる」ことが大切、次いで男性は近隣関係、女性は「友人と過ごす時間」

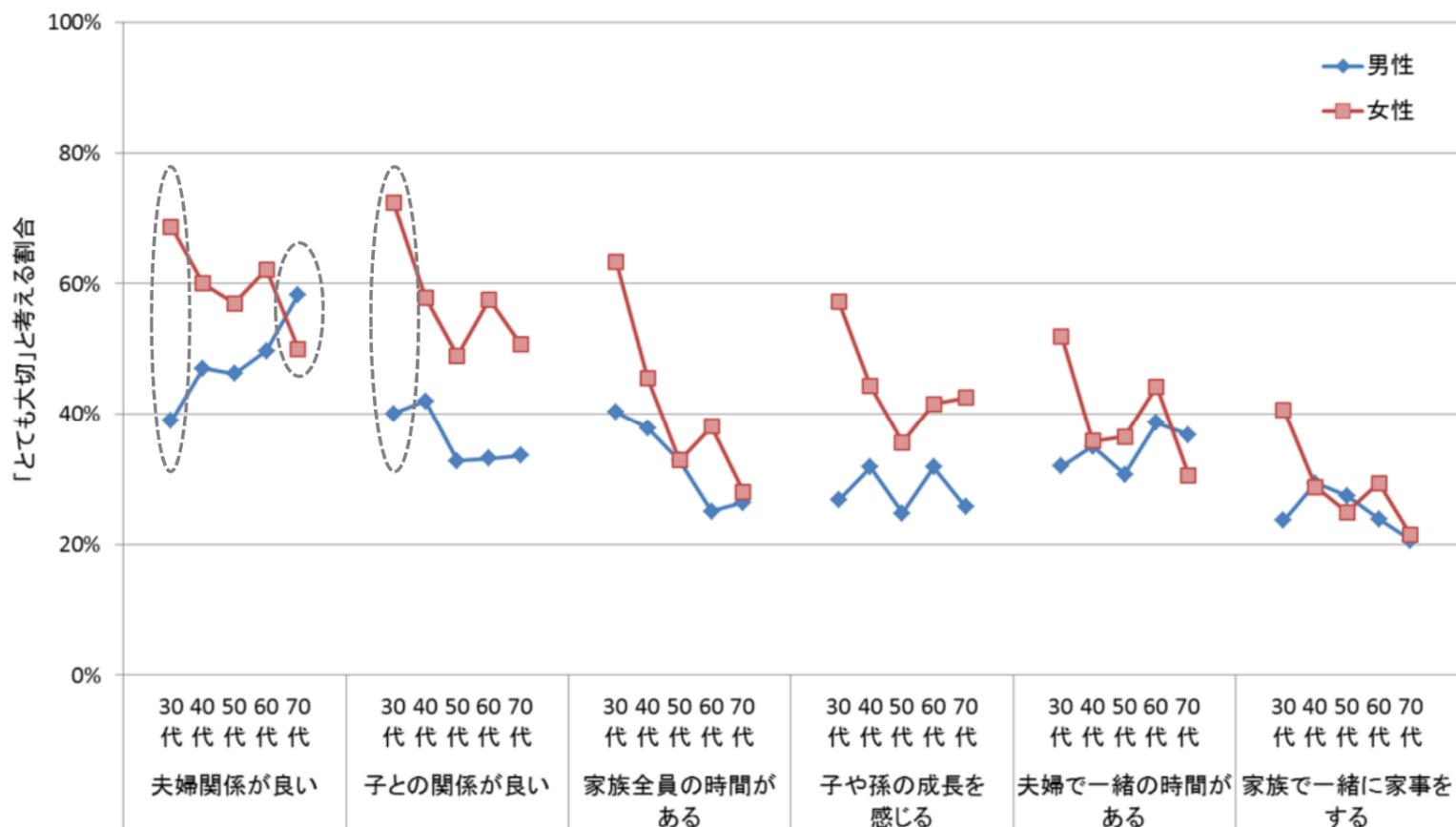
C.社会とのつながりにおいて男女ともに「親しい友人がいる」ことが大切で、特に30代女性では43.2%がとても大切と考えています。「隣家と関係が良いこと」「近所と関係が良いこと」については40代、50代でとても大切と考える割合が低くなり、30代と70代で最も高くなります。地域社会との関わりは、子どもが小さい時期とリタイアメント時期に深くなるようです。



豊かに住まうために大切な要素 D.家族とのつながり

30代は「子・夫婦の関係が良い」ことに対する男女差が大きく、年を得て近づいていく

「家族とのつながり」において男女ともにとっても大切と考える割合が高かったのは「夫婦関係が良い」です。しかし、30代以下では女性が高く、男性が低いため男女差が非常に大きく現れます。60代女性が前後の年代よりも高くなることも特徴的です。



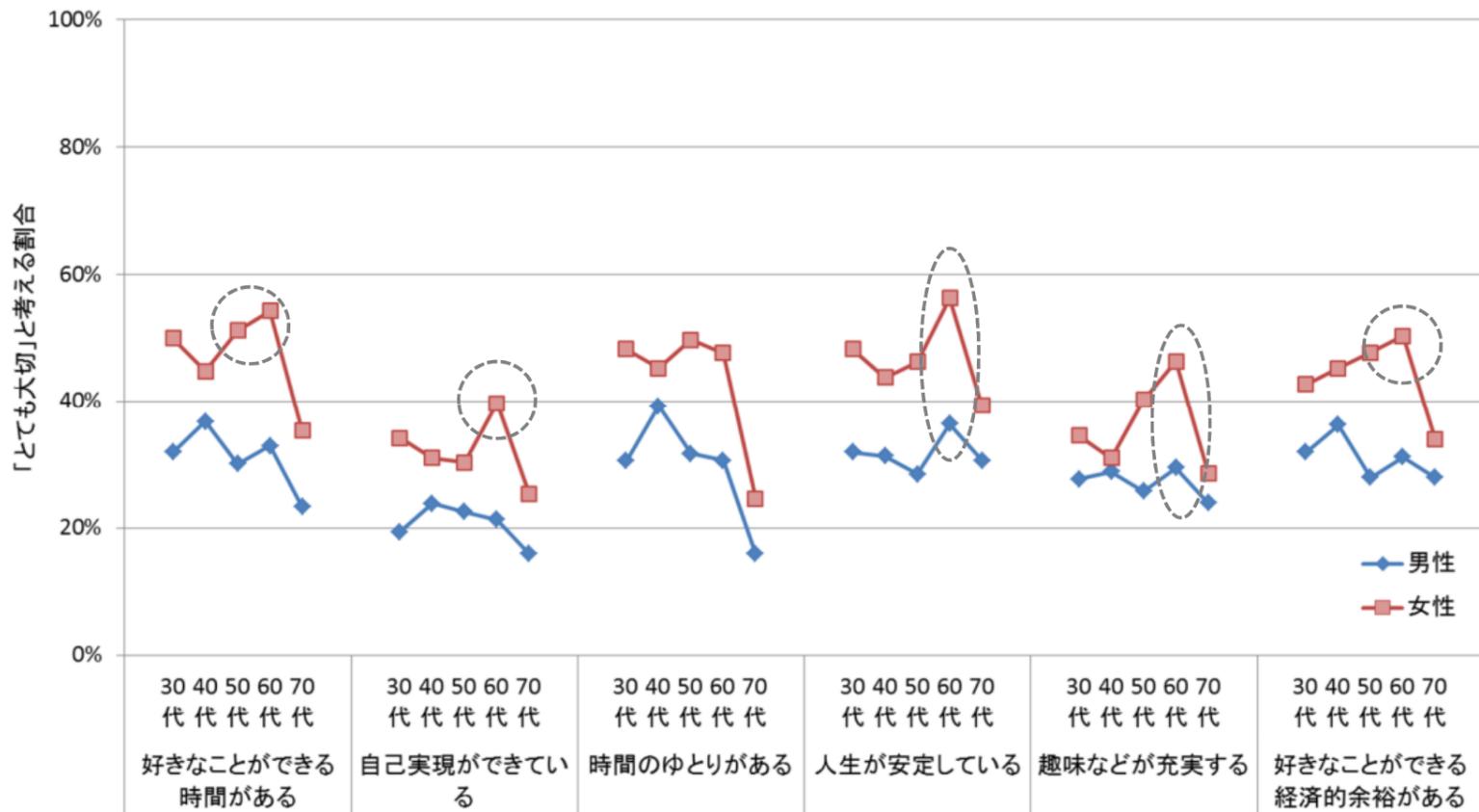
※配偶者ありの回答者を母数とした場合、「夫婦関係が良い」70代男性58.6%、70代女性53.4%、「夫婦で一緒の時間がある」70代男性37.1%、70代女性34.0%

2.豊かに住もうために大切と感じる意識の構造

豊かに住もうために大切な要素 E.自己実現のための時間や経済的なゆとり

60代は「人生が安定している」「趣味などが充実する」ことが大切で60代女性は非常にアクティブ

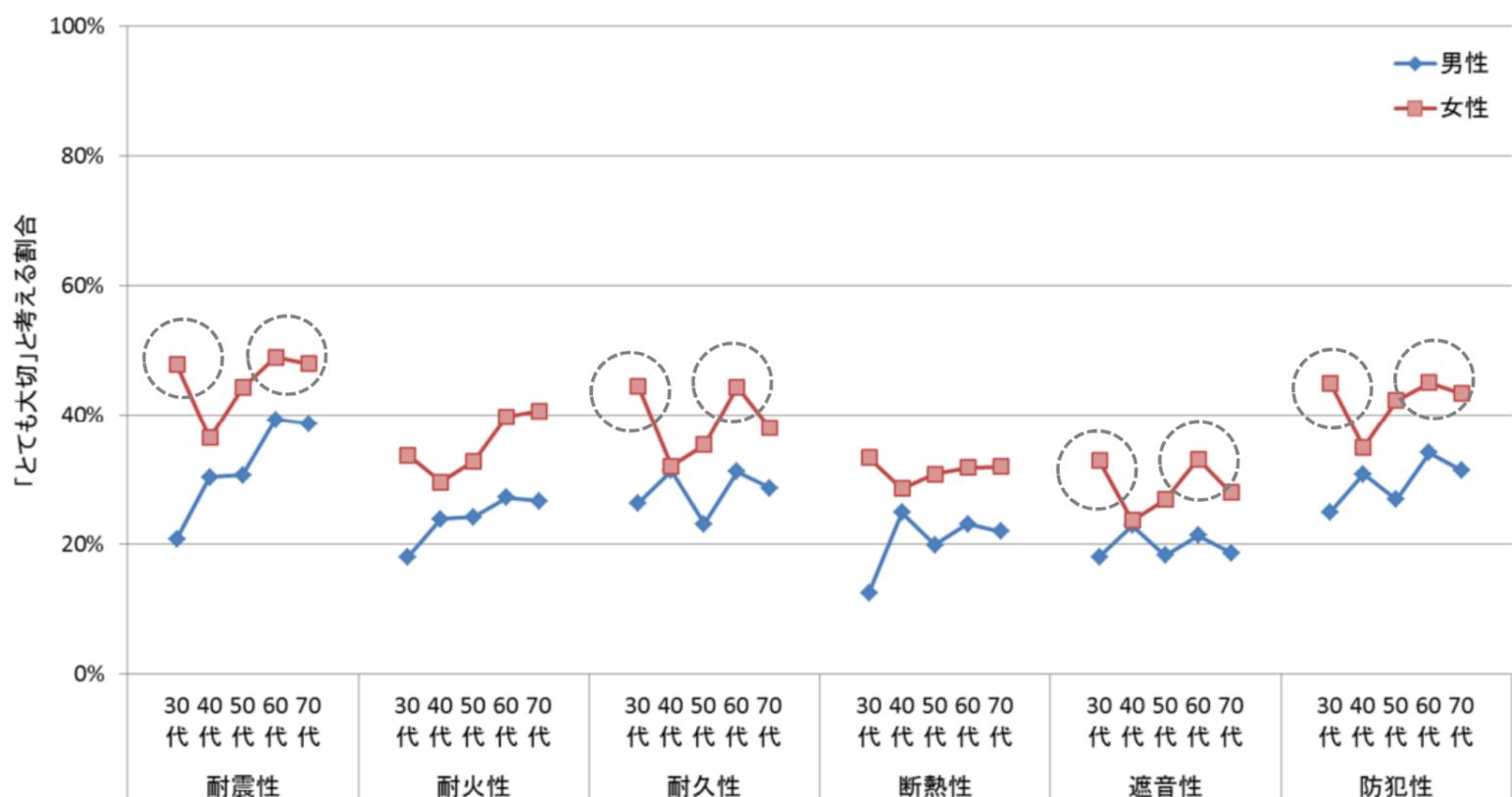
60代では前後の年代と比べて「人生が安定している」「趣味などが充実する」ことをとても大切と考える割合が高く、特に女性で顕著です。「好きなことができる時間がある」「好きなことができる経済的余裕がある」「自己実現ができていく」についても60代女性で高く、60代女性のアクティブさが感じられる結果となりました。



豊かに住もうために大切な要素 E.安心・安全な暮らし

30代と60代女性は、「耐震性」など建物性能の安心・安全な暮らしをとても大切と考えている

「耐震性」「耐久性」「遮音性」「防犯性」については女性は30代と60代でとても大切と考える割合が高い傾向が見られます。30代男性は総じて低く、30代女性との差が目立ちます。







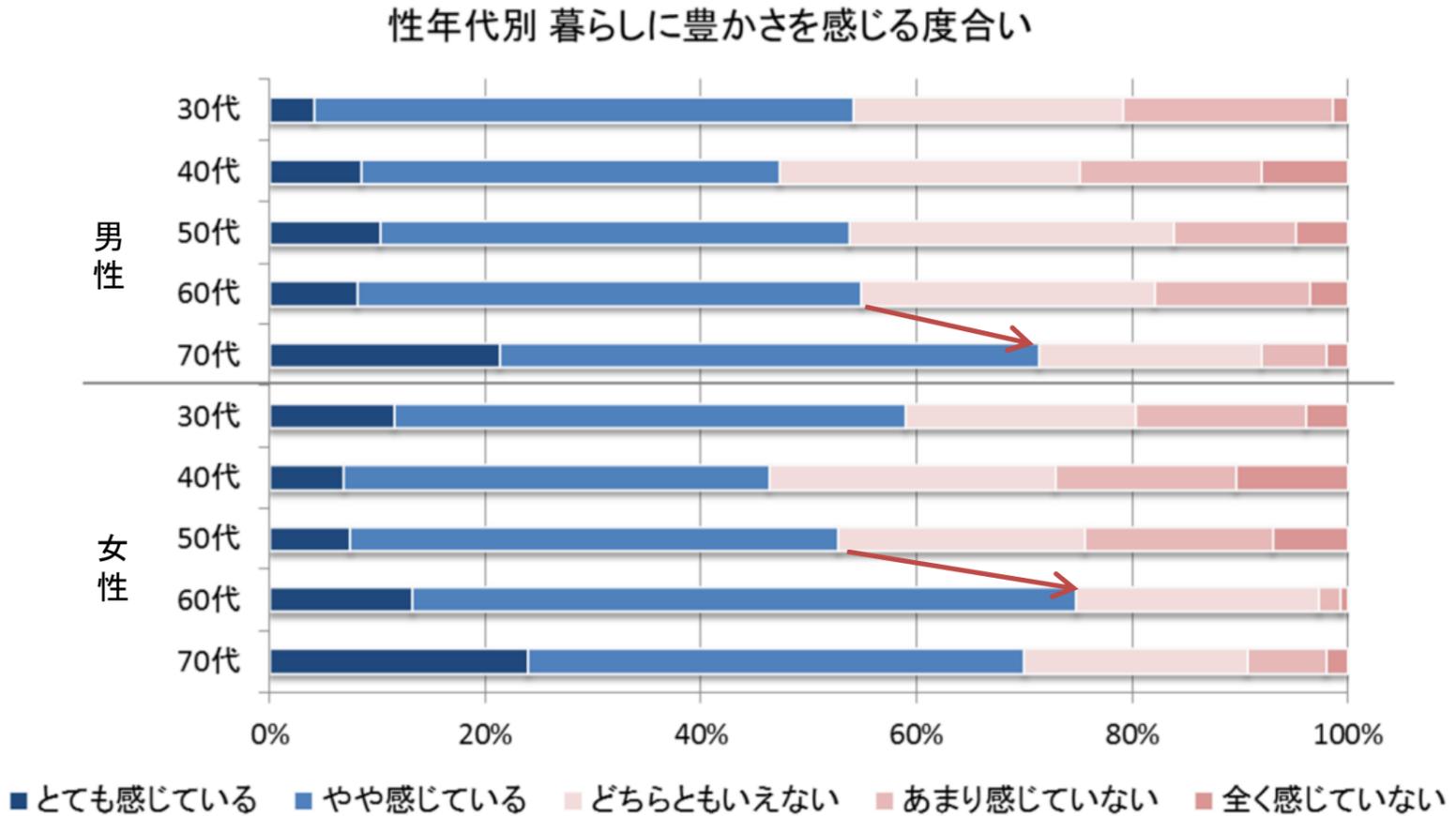
3. まとめ



3. まとめ

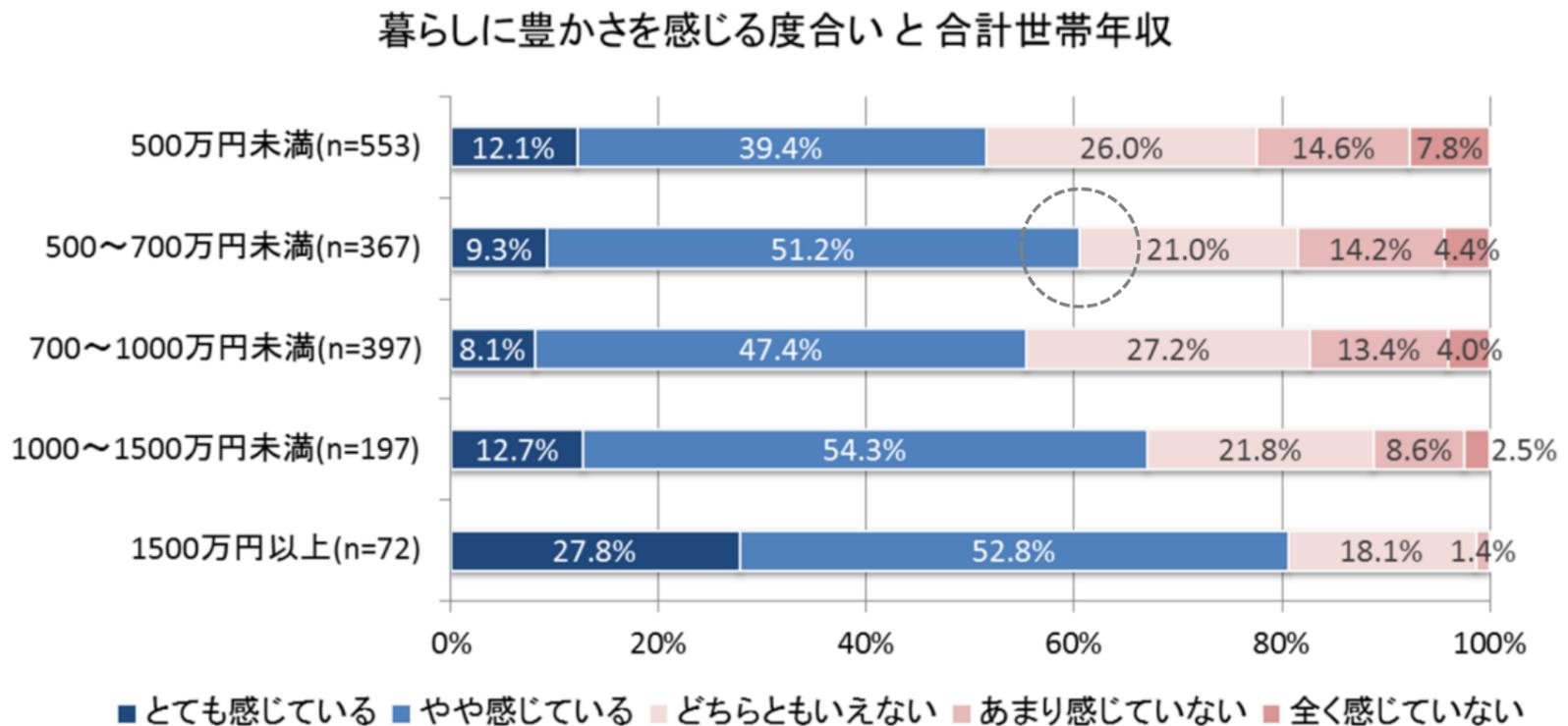
豊かさを感じている人は、全体の57.6%、60代以降でより豊かさを感じている

暮らしに豊かさを感じる割合については、年代では、30代以下から40代で豊かさを感じる割合が減少し、男性は60代から70代で、女性は50代から60代で最も大きく増加するV字型の傾向がみられます。



世帯年収が高いほど暮らしに豊かさを感じる傾向があるが、それだけではない

暮らしの豊かさと世帯年収には関係が見られますが、しかし、合計世帯年収500~700万円未満のカテゴリで豊かさを感じている割合が高くなっています。暮らしの豊かさには、世帯年収以外の要因があることがうかがえます。

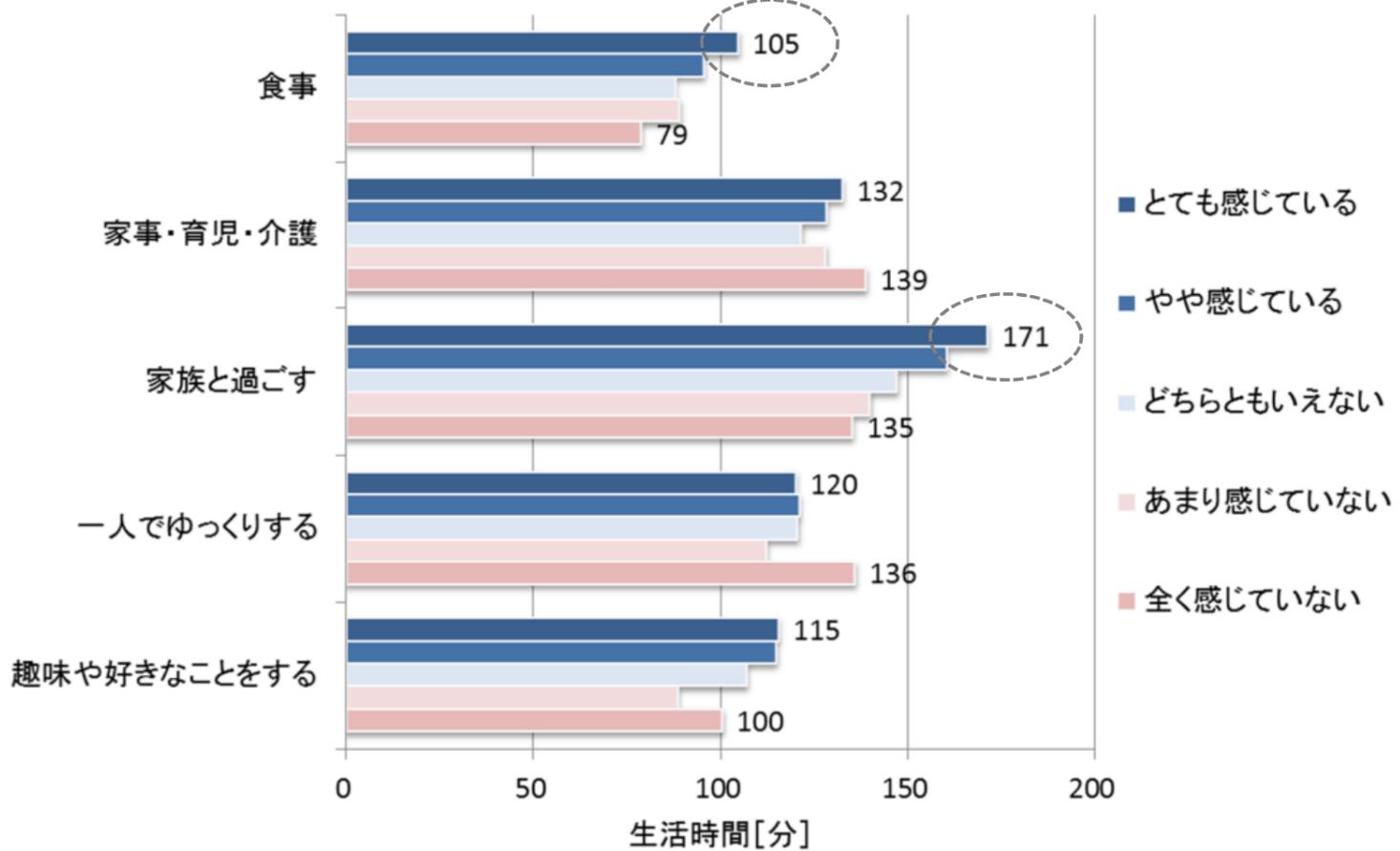


3.まとめ

豊かさを感じている人は、自宅で「家族と過ごす」時間や「食事」時間が長い特徴がある

平日の生活時間をみると、豊かさを感じている人は、「家族と過ごす」時間と「食事」時間が長いことがわかります。「家事・育児・介護」に関しては豊かさを「とても感じている」人が長い反面、「全く感じていない」人も長いという傾向があり、年代別にみた結果、若年者と高齢者で反対の傾向を示すことがわかりました。

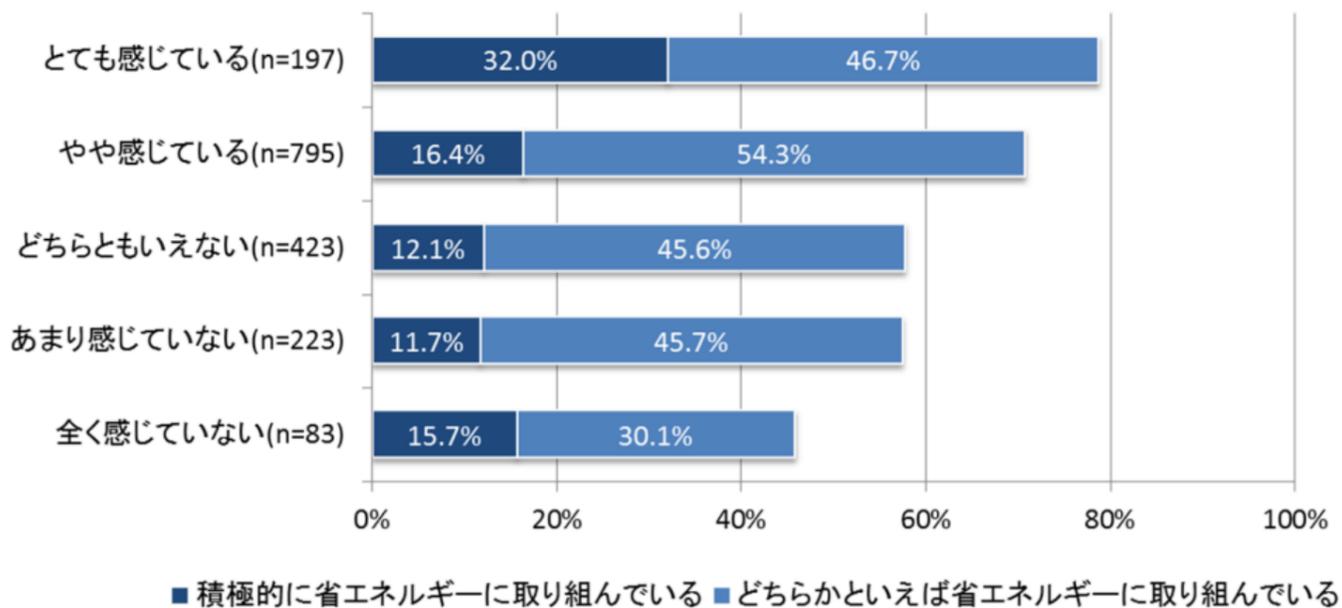
暮らしの豊かさを感じる度合い別自宅での生活時間(平日)



豊かさを感じている人は、省エネルギーに積極的に取り組んでいる

豊かさを感じる人ほど省エネルギーにも積極的に取り組むことがわかりました。豊かさを感じることは、健康を気遣い、自然や四季の移り変わりにも敏感になり、地球環境に思いを寄せることになるのかもしれませんが。

暮らしに豊かさを感じる度合いと省エネルギーに対する取り組み



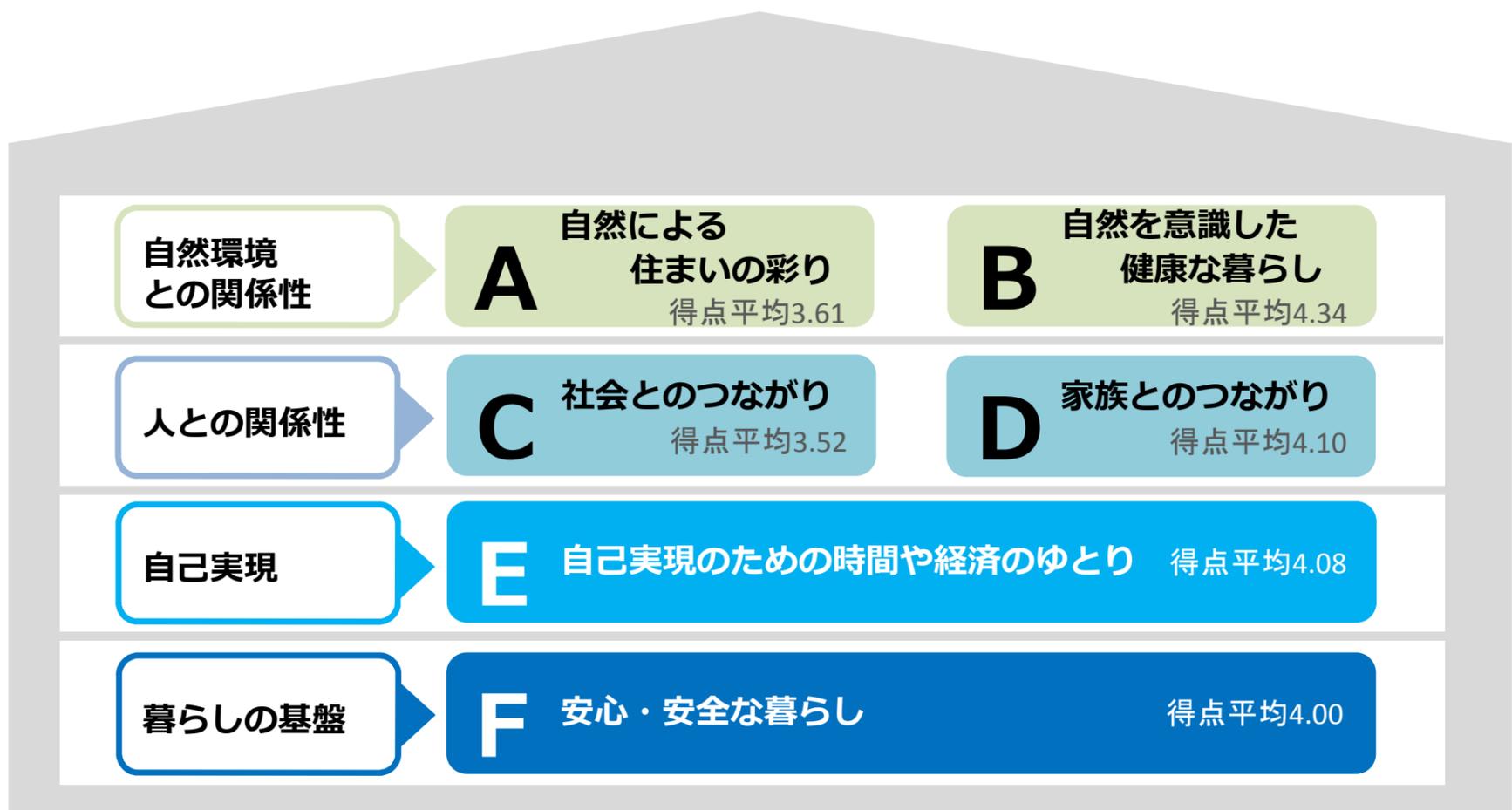
3. まとめ

「豊かに住もう」ためには、暮らしの基盤の上に、自己実現、人や自然との関係性を築くことが大切

空間のデザイン、時間のデザイン（長期にわたって存在する項目からひと時を過ごす項目）を考慮して、豊かに住もうために大切だと考えられる9分類・91項目を設定、それぞれ5段階で「とても大切」から「全く大切でない」までの評価を用いて因子分析を行うことにより、豊かに住もうために大切なことは、「暮らしの基盤」「自己実現」「人との関係性」「自然環境との関係性」の4分類、6つの要素であることがわかりました。

住宅建物や社会経済状況からもたらされる「安心・安全な暮らし」が基盤となり、「自己実現」のためのゆとりが時間と経済の両面から大切と考えられています。さらに「人との関係性」とともに「自然環境との関係性」が暮らしを豊かにします。特に認識を新たにしたのは、「自然環境との関係性」が住まいと健康の側面からそれぞれ別のものと意識され意味が異なるということです。

■豊かに住もうための大切な要素



対象:戸建居住
30代~70代男女

豊かさの構造を意識することは、暮らしの豊かさを求めた住まい・サービス等の事業を考えるうえで必須であり、今後の研究、要素技術開発、空間設計において対象とするドメインを明確にすることができると考えております。本研究から得た知見を元に更に検討を加え、今後の住宅のあり方や暮らしのご提案に活かしてまいります。





くらしノベーション研究所

「豊かに住まうこと」調査報告書

発 行 2015年3月18日
発行所 旭化成ホームズ株式会社
文 責 くらしノベーション研究所
主幹研究員 下川 美代子